

---

令和2年 第102回（定例）新温泉町議会 会議録（第3日）

令和2年6月12日（金曜日）

---

議事日程（第3号）

令和2年6月12日 午前9時開議

- 日程第1 一般質問
- 日程第2 議案第58号 令和2年度新温泉町一般会計補正予算（第5号）について
- 日程第3 議案第59号 令和2年度新温泉町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について
- 日程第4 議案第60号 令和2年度新温泉町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第5 議案第61号 令和2年度新温泉町浜坂地区残土処分場事業特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第6 議案第62号 令和2年度新温泉町温泉地区残土処分場事業特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第7 議案第63号 令和2年度新温泉町浜坂温泉配湯事業会計補正予算（第1号）について
- 日程第8 議案第64号 令和2年度新温泉町水道事業会計補正予算（第2号）について
- 日程第9 議案第65号 令和2年度新温泉町下水道事業会計補正予算（第1号）について
- 日程第10 議案第66号 令和2年度新温泉町公立浜坂病院事業会計補正予算（第1号）について

---

本日の会議に付した事件

- 日程第1 一般質問
- （1）5番 浜田 直子君
- （2）7番 太田 昭宏君
- （3）14番 谷口 功君

---

出席議員（16名）

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1番 池田 宜広君 | 2番 平澤 剛太君  |
| 3番 河越 忠志君 | 4番 重本 静男君  |
| 5番 浜田 直子君 | 6番 森田 善幸君  |
| 7番 太田 昭宏君 | 8番 竹内 敬一郎君 |
| 9番 阪本 晴良君 | 10番 岩本 修作君 |
| 11番 中村 茂君 | 12番 宮本 泰男君 |

13番 中井次郎君

14番 谷口 功君

15番 小林俊之君

16番 中井 勝君

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 仲村 祐子君 書記 ..... 小林 正則君

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 .....	西村 銀三君	副町長 .....	西村 徹君
教育長 .....	西村 松代君	温泉総合支所長 .....	長谷阪 治君
牧場公園園長 .....	藤本 喜龍君	総務課長 .....	井上 弘君
企画課長 .....	岩垣 廣一君	税務課長 .....	長谷阪 仁志君
町民安全課長 .....	小谷 豊君	健康福祉課長 .....	中田 剛志君
商工観光課長 .....	水田 賢治君	農林水産課長 .....	西澤 要君
建設課長 .....	山本 輝之君	上下水道課長 .....	奥澤 浩君
町参事 .....	土江 克彦君	浜坂病院事務長 .....	吉野 松樹君
介護老人保健施設ささゆり事務長	宇野 喜代美君	会計管理者 .....	仲村 秀幸君
こども教育課長 .....	松岡 清和君	生涯教育課長 .....	谷 渕 朝子君
調整担当 .....	島木 正和君	代表監査委員 .....	川崎 雅洋君

---

午前9時00分開議

○議長（中井 勝君） 皆さん、おはようございます。

第102回新温泉町議会定例会3日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御多用のところ御参集を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日は、2日目に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。

議員各位におかれましては、格別の御精励を賜りまして、議事の円滑な運営に御協力を賜りますようお願いいたします。

町長挨拶。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の皆様、おはようございます。定例会第3日目の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、昨日に引き続きまして、3名の方より一般質問を賜っているところであります。いずれも行政運営に係る重要な案件であり、誠意を持って答弁をさせていただきます。

すので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、休憩中には補正予算の説明をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（中井 勝君） ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しておりますので、第102回新温泉町議会定例会3日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

---

### 日程第1 一般質問

○議長（中井 勝君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、受付順に質問を許可いたします。

初めに、5番、浜田直子君の質問を許可します。

5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） おはようございます。5番、浜田直子です。議長より許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

コロナ禍における支援策、対策等の充実とアフターコロナに向けた対策を求めるについて質問させていただきます。

コロナは今もって世界中で苦しんでおられる方たちもいらっしゃいます。少しでも早い終息を願うとともに、医療関係者の方々に対し敬意を表すとともに、今回、いろいろと対応をしてくださっている町長をはじめ、皆様の御努力に感謝いたします。

コロナ禍の中で、生活の変化により困っている方たちへの今行うべき対応、支援を充実する対策とアフターコロナに対する対策はどのように進められるおつもりでしょうか。今回、いろいろな支援策を2回の臨時会を開き、していただいておりますが、それでもまだなお、個人の収入減によるいろいろな問題はあります。そういったような対策、具体的に何かまだお考えでしょうか、お聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 5月には2回の臨時会を開催させていただきました。特に事業者に対する一律10万円の支援金など、いろんな面で次の一手を考えさせていただきたいと思っております。水道料金の減免もさせていただくようにしておりますし、生活を支えるという視点で、コロナに対するありとあらゆる、できる限りの支援をやっていきたい、そのように思っております。

当町は観光を中心に、非常に観光客の減少ということで、多くの事業者の方が本当に収入ゼロということもありますし、次の経営が本当にできるかな、そういうところもたくさんあります。それに伴って、そこで働いてる方々の収入も大幅に減収するということもありますので、きちりとそこを捉まえて、皆さんと御協力いただく中、支援をやっていきたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 大変心強い思いを語っていただき、うれしく思います。ぜひそのようにしていただきたいです。

昨日、おとといの一般質問でもありましたように、町長は大変あちこち本当に細かく関わり、住民、町民の気持ち、企業の気持ちを酌んでおられるように本当に感じます。私も微力ですが、商店街、小・中企業中心に何度か回らせていただき、本当に大変さを身にしみて感じました。皆様、本当に困っておられます。とてもありがたい給付金等を考えてくださってるんですが、どうしてもそういったようなところから漏れてしまう、そういったような方がいらっしゃいました。急いで、早くということで、本当に考えてくださった制度ではありますが、どうしても100%全てを網羅するというのは難しいことであったように感じます。

ていうのも、どうしても仕方がないのですが、やってみないと分からない例というのは何件かありました。例えて言わせていただくなら、企業給付金にしましても、この町で開業されていても住所が違う町であったために、ここでは難しい、これについては前向きに検討してくださってるんですけど、また、個人の給付金につきましても、DVでこちらのほうに住所はあっても住んでおられない方もいらして、そういったような方たちへの給付ってというのは難しいということが分かりました。そういった場合、やはり町長の判断で給付していただけるような形があったらなと切に思いました。

そしてまた、ありがたいと言ってはあれなんですけど、そういったような困ったことを当町の役場の皆さんに相談させていただいたときに、とても一生懸命、親身に考えてくださいました。そういったような若い職員さんがいた、そして前向きに取り組んでくださるということを本当に感じて、それはありがたい、これからそういったような思いを職員の中でも自分事と捉え、頑張ってくださいる職員さんがいたということを本当にありがたく思いました。今回は制度なのでという言葉で終わってはしまいましたが、それでも前向きな、職員としての町民のためにという思いをこれからも述べていただけると、發揮していただけるとありがたいと思いましたが、心強いと思いましたが。そういったような職員に対しての思いというものは何かございますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 細かい配慮は当然必要だと思っております。3月に倒産された事業所の職員さん、約10人が職を失ったわけですけど、次の職場がない、そして家賃も払えない、そういうことも相談を具体的に受けております。いろんな支援策があるようでもありますので、そういったものを説明する中で、一人でも多くの方が困ることがないようにやっていきたいと思っております。

それから、そういった情報を、いろんな情報を職員の方々と共有する、その中で職員の方々も本当に今回、いろんな知恵を前向きに出していただいた、そのように思っております。そういう中で、一人でも多くの方が生活に困ることがないように、支援を手厚くやっていきたい、そういう思いで取り組んでおります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） その思いを受けまして、個人の家庭で大変収入が減っておられる家庭があります。そういった子供さんたちが大学、専門学校に行かれている場合、その場所でアルバイトもできない、授業料、生活費も稼げないといったような生徒さん、子供たちがいらっしゃるようです。そういったような子供たちの救済策はお考えでしょうか。

あともう一つ、子供に関してなんですけど、特別定額給付金は4月27日が基準日ということで、その日に生まれているお子さんは10万円頂けるんですけど、1日でも遅れてしまうと、ない。ですが、多くの家庭ではこの1日で、生活一緒でも、生まれてきた赤ちゃんには同じようにミルクもおむつも要ります。いろんな出費がかさみます。そういったようなことで、国内では何十か所か、今年度いっぱい生まれた赤ちゃんに何らかの支援をする、同じ10万円を支援する、5万円を支援する、私、個人的には商品券、食事券等での支援でもいいので、何かそういった今年度生まれる子供、赤ちゃんに対してはこの町として何か対策を考えていただければと思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 大学生、専門学生さんに対しては、現在、町の特産品を送ったかどうかということで追加補正の中で上げさせていただきたいな、そのように思っております。そのほかの支援策もあれば、職員の知恵を出していただいて、十分な対応を少しでもしていきたい、そのように思っております。

それから、基準日に該当しない方がどうしてもあると思います。先日も、基準日から4日前に亡くなって、残念ながら給付金が頂けない、こういったお話も聞きました。どうしても制度の壁というものがあるので、我慢していただく話をしたんですけど、いろんな、そうですね、1日というふうな、本当に気持ちとしては支援はしてあげたいという気持ちはあるんですけど、国の制度ですので、我慢していただかないといけないのかなと思っております。また、支援策、別途で検討はしてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） その制度ということでいつも壁になるんですけど、やはりこの制度というのは100%完璧ではないと思います。やってみないと分からないところとかありますので、そういったようなことも事例も出てますし、実際、全国では30か所以上の市町が何らかの対応をもう既に始めておられます。河内長野市でも5万円、岡山県の浅口市では今年度いっぱい4月1日まで、来年の4月1日まで生まれた子供さんには10万円、香川県、和歌山県は母子手帳を交付されているところに10万円、愛知県の田原市では10万円の商品券を配付したりしていて、少なくとも、これは少なくともですけど、30か所以上の市町が、自治体がそういった赤ちゃん、これから生まれてくる赤ちゃん、今生まれたところというか、4月27日以降の赤ちゃんにも支援を考

えてくださっているということです。昨日、おとといの町長の答弁を聞かせていただいて、本当にこの町に住んでよかったと思われる町、この町で本当によかったなと思ってもらえる町になっていただきたい気持ちの一環としてそのような対策も考えていただければと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県下でも非常に子供の出生率が一番悪いほうになっておりますので、十分検討したいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それと、大学、専門学生に地元の特産品をっていうことで、それは私も以前に提案させていただいたんで本当にありがたいんですけど、やはりそれもありがたいです。それももちろんしていただきたいんですが、希望者でも学費なり生活費を支援してあげれる、どうしても困っている方っていうのはいらっしゃいますので、そういった方たちへの対応も期待しますが、どうでしょうか。現金では難しいでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 検討させていただきます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 収入の件ですけど、普通の定職に就かれている方たちはいろいろな事情で支援がありますが、パートであったり、アルバイト、フリーランス等の方が減っておられる方も多く聞きます。減っているというか、なくなっておられる方もお聞きしています。そういった方たちが家賃、電気代、本当に困っておられます。そういったときにどこに相談していいか分からなかったっていう声を何度か聞きました。私もよく分からなかったんですけど、社協さんに相談させていただいたり、役場にももちろん来させていただきました。そういった方たちが困ったときに、どこに連絡していいかが分からないっていうのがいつも問題になっております。何かがあったときにどんなことでも相談してくださいって言えるような電話相談窓口的なところがあれば、困った方たちも本当に助かるのではないかと思います。

今朝の神戸新聞でも自殺の相談が2か月で5倍になったという記事が1面に載っていました。それぐらいいろんな、自殺を考える、そこまで考えられる方も増えるのは本当に悲しいことですけど仕方ないと思うんですけど、そうじゃなくても困っておられる高齢の方とか、いろいろな生活様式の方がいらっしゃいますので、そういった方たちに対しての対応、まず1歩目の対応としてそのような対策を望みますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町としては総合案内ということで、窓口に町民安全課の職員が対応するようにしております。それから、なかなか役所に行きにくいという面もありま

すし、今度の支援制度についてはチラシなど広報でお知らせをさせていただいております。それを見ていただければ、例えば、社協の福祉基金制度などもありますし、支援体制は十分とは言えないかも分かりますけど、制度としては整っていると思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 制度としては本当にたくさんあるのは分かりますし、本当にさせていただけてありがたいと思うのですが、それを使いにくいというんですか、役場まで来るというところに関して、申し込むまでのハードルが結構高い、いろんな助成金や補助金を国や県、町が準備していても、何かどうなんだろう、うちはいけん違うかなとかって勝手に思い込んでしまっておられる方が、今回、ちょっとしたことでいろいろ相談聞かせていただいたら、そう思っておられる方が結構数いらっしゃいました。そういったまずつながり、心安い輪っていうんですかね、町が迎えてくれるというか、行政と町民との距離感を縮めていただき、こういうときこそ力を合わせてつながっていくっていう思いを出していただいて、本当に気楽に相談してくださいね、大丈夫ですかっていう思いを伝える温かい行政になっていただきたいんですけど、そのような思いに對してはどうでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そのとおりだと思います。やはり、何でも相談しやすい役所、そういった中でいろんな問題解決につながっていくと思いますし、それにはやはりふだんの声かけ、ふだんからの住民の方々とのつながりが大事だと思います。ふだんにつながりというのは、朝の挨拶であり、街角で会ったときの何でもない笑顔であり、そういったものがやはり大事かなと思っておりますし、議員の皆様も率先してそういう動きをされているように聞いておりますので、ともに住民目線で頑張っていけたらいいな、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） おっしゃるとおりです。私も皆さんとともにというか、広い意味でつながり合って、ふだんが大切っていうのは本当に感じます。ですが、こういったような急なときというか、非常事態とも言える大変な災害というか、目に見えない戦争ぐらいにこんな大変なときに、それまでのつながりがあまりできてない、ちょっと遠慮しがちな、特にこの町の方たちは遠慮というか、奥ゆかしいというか、そういう美德というか、そういうような方も多いですので、こんなときにどんどん言ってきてくださいねという姿勢を本当にお願ひしたいです。

それと、高齢者、具体的にはパートの方たち、先ほど述べましたパートの方たちへの対策というのは、今のところは特別ないでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 特にパートの方という、そういう、何といいますか、範囲を決

めた支援策というのではないわけですが、国の10万円の支援金などを有効活用していただきたいと思いますし、水道料金の減免、それから、これは国保、国民健康保険料、こういったものの、これから提案させていただきたいと思っておりますけど、日常生活にかかる負担を少しでも軽くして、生活支援ができるようにできたらな、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように期待いたします。楽しみにしております。

それと、では、次に、高齢者のコロナウイルス対策に係る不安を緩和するために、衛生用具等の配付があればと思うんですが、いかがでしょうか。ここでいう高齢者なんですけど、よく独居に限るとか、2人世帯とかって言われることが多いんですが、やはり高齢の方が家族の方と住んでおられても、昼間はお一人であったりとか、そういった場合も多いですので、そういったようなくくりはなるべくされずに、高齢者となりましたら、ある一定以上の年齢の方を対象にして、もちろん独居であったりとか、2人だけであっていうところも大切ですし、気に留めないとはいけないですが、何らかの対応を取られる場合には、対策制度を活用していただく場合には、高齢者を一くくり、一くくりというか、一緒に考えてくださったほうが喜ばれるというか、してほしいという高齢者の声もありますので、この辺はどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 高齢者に対する衛生用品の提供など、配付ということでありまして、取りあえず本町ではマスクを配付させていただいております。その際、独居の高齢者、それから夫婦2人住まいの高齢者、そういうくくりで配付をさせていただきました。それについてはいろんなところから、いろんな方々から少しやり方を考えてほしかったな、そういう意見もいただいておりますので、今後は見直しを図っていきたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） このマスクですけど、本当につけ心地がよくて、喜んでおられる方多いので、高齢者の皆さん、もうちょっと欲しかったと思われる方もいらっしやうです。これからいろいろなことも考えてくださるようであり、具体的にはほかの衛生用品等は考えては今のところはないでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在のところ、特に考えていません。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それでは、次に、企業についての支援は、国の持続化給付金、県、町等で休業要請、事業者経営持続支援金等、50%以上収入減があったところに給付金はあるのですが、50%っていうと本当に危機的、もう絶対支援が必要っていうのは分かるんですけど、分かりますし、ありがたい制度です。ですが、30%減、

それまでの40%、20%、10%であってもこう何か月も続き、2か月以上続き、ましてやこれからまだ先が見えない状況にあって、この50%じゃないと支援できないというのは、仕方がない部分ではあるとは思いますが、町がしてはくださってますが、実際、本当に困っておられる企業というのはたくさんあると思います。そういったところがやはり給料とかで跳ね返ってきてるという話も、この当町でも伺いました。そういった50%までの企業に対してももう少し手厚い補助、補助というか、給付金支援なりがあれば、本当に助かると思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の言われるとおりでと思います。国はなぜ5割というラインのみにしたのか、4割も3割もあってもよかったのではないかと、そのように考えておりますし、そういったところを町で何とかバックアップできないか、そういう思いもあるわけでありまして、これは国の交付金など、そういったものがもっともっと潤沢にあれば対応できると思っております。今回は、取りあえず、取りあえずといいますが、1事業所当たり10万円ということで支援を考えさせていただいた、そういう思いであります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） その支援でも本当にありがたいです。ですが、やはり、基金を崩してでもこの町を守ると昨日、町長もおっしゃったように感じました。それぐらいの覚悟を持ってこの町を助けていただきたい、基金をこういうときにこそ生かしていただきたいと思うのですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基金の用途につきましては、やはり緊急事態、それから本当の次なる投資、未来を開く投資、そういったものが基本的に使える大きな要素かな、そのように思っております。これは議員の皆様方と十分な相談をした上で、基金の使い方については考えていきたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そうです。皆さんと相談して、今まさに大変なときだと思います。大変な方たちがたくさんいらっしゃいます。前向きに皆さんと相談して、この窮地を、この町を助けてもらえるよう努力していただけるよう期待しています。

それでは、次の質問へ移らせていただきます。長期休暇後の子供たちへの支援の現状と対策の内容を問わせていただきます。

子供たち、長い休暇を終え、うれしい子供たちも多いとは思いますが、それ以上にやはり、予想外の休みが長く続いてしまい、子供たちも不安定な日々を送ってたと感じます。そういったここ何日かの話や以前の話聞いてて、一生懸命対応してくださってるというのは分かるのですが、その状況、現状、6月に入ってからの子供たちの対応が分かれば教えていただきたいです。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長に答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今議員のおっしゃったように、子供たちにとっては本当に先の見えない状況の中で長い休業があったわけです。子供たちの心配というのは、本当に大人が考えるより、子供たちの不安というのは非常に大きいと想像できますし、そう思っています。今回、学校再開に向けてアンケートを取らせていただいて、子供たちが今どんな気持ちでいるのか、また、保護者の方がどのようなお気持ちだったのかということのアンケートを取らせていただきました。その中でも、想像できたことですが、生活がやっぱり昼夜逆転だとか非常にしんどい思いをして、それから、やっぱり家庭の中で勉強の時間がきっちり取れるところもあれば、子供によったら本当に勉強が全然できてなかったり、夜中に寝たりとか、本当にそんな大変な状況もありましたし、子供たちをじゃあ6月に迎えるときにどうしていったらいいのかというようなことで、普通であれば夏休みにスクールカウンセラーのカウンセリングマインドの研修を行うんですけども、受け入れる先生方がやはりそういった子供たちにより寄り添っていただくためには、そういったことを学んでいただくべきと思いましたので、スクールカウンセラーのマインド研修を前倒しをして5月にしてもらいました。その中で、新型コロナウイルス感染症に対する心のケアと登校時の児童生徒への対応ということで、研修を受けていただいております。本当に少しでも子供たちの不安が解消できるような形で6月1日を迎えたいという思いで、してまいりました。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） いつも思うのですが、当町の子供、教育関係は手厚いと感じています。本当、感謝してます。ですが、やはり表に出てこない問題、DVであったり、虐待であったりとかもありますし、いじめのこととかもあると思います。そういったところにも、細部にも目を向けていただき、いただいとると思うんですが、いただき、やはりいろいろなケースがあるので、大変だとは思いますが、そのように向かってくださるといふのを今お聞きして、大変うれしく思いますが、それでも、やはりこれから、今はまだちょっと緊張してるというか、あれだと思うんですけど、夏休みも少なくなりますし、これから不安というか、ちょっとやはり今までの疲れというか、も出てくるかもしれないので、そういったようなところへの配慮をお願いしたいと思えます。

具体的にそのような長期の休み、家族が家にいるということで、DVや虐待についての報告とかありましたでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 休校中にDVとかそういった事例は挙がってきてはいないんですけども、アンケートの中には、やはり親子で過ごす時間が長くて、親が子供に教

えないといけないというような時間が長かったときに、やはりお互いにストレスをすごくためているというようなことがありました。やはり、特に小学校1年生なんかでは、本当でいえば、学校でこのように学ぶというか、鉛筆の持ち方一つにしても学んでくるんですけど、もうそこからやらないといけないということで、非常にストレスがたまっていたというようなこともアンケートの記述の中にもありました。ですので、子供たちの中には、本当にそういった思いもありますし、親御さんにとっても長い、大変、非常にしんどい時間だったなということは想像できます。具体的な例としては挙がってきてはおりませんが、これからだと思っています。体調を崩し始めてるお子さんもいますし、心配していた不登校の傾向が少し出てきてるお子さんもおりますので、そういったところへ、やはり本当に見えない心、人間の心って見えないですので、非常に難しいんですけども、やはり日頃から声をかけていって、子供たちの挨拶の音が元気なかったらどうしたって、どうしたのって、そんな声かけから少しでも話をしていくことで、何か子供の心をつかむことができたなら現場の先生たち頑張らせていただいておりますので、教育委員会としてもしっかり支援をしていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） とてもありがたい対応を感謝いたします。きめ細やかな対応ということで、DVやそういったことというのは、本当に出てこない、表には見えない、出てこないですが、やはりそうやってアンケートとかでもちらっと見えるように、表に出にくい問題です。気にしてあげてほしいというか、ないことはないと思いますので、これからもそのように期待しています。

それと、そういったようないろいろな問題等を家庭のみならず、子供のことのみならず、いろんなことを就労場所、企業が働き方改革とか、コロナという理由で、時給は上がるけど、トータル、月給は下がったっていう話をいろんな職種の方からお聞きしています、この町でも。そういったことも実際ありますので、そういったことを気軽に、何でも相談できる場所っていうのがやはり必要なのではないかと、今、コロナのこういって中で改めて、何度も言っていますが、改めてそういう場所が必要なんじゃないかなというのを感じています。町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） すみません、もう一度質問をお願いいたします。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 子供のことももちろん、家庭内DV、虐待、老人に対してもいろんな悩みっていうのはますます今回表に出てきています。コロナの関係でとは限りませんが、収入の減っておられる方たちもたくさんいらっしゃいます。そういったような方たちが気軽に、どこに悩みを相談していいかわからない、そういった場所、受け入れてくれる場所っていうのをまず考えていただきたいのですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 相談窓口なり、親身になって問題解決をしてもらえるような、そういったところが必要だというのは分かります。当町では総合案内窓口というのがあるわけですが、それぞれのまた課があります。具体的な相談につきましては、それぞれの課で懇切丁寧に対応をしていただければと思いますので、ぜひ気軽に御相談をしていただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それは理想ですし、もちろんその課に行けばそのことへの対応はしていただいています。本当に素晴らしい職員さんたちでありがたいなと思うんですが、どこに行ったらいいか分からないという、その役場のハードルがとても高いというのが現状ではないでしょうかということをお願いしています。なるべく受け入れてくださるところをつくってほしいです。

それと、先ほどすみません、家賃と住宅ローンが困っておられる企業、個人の方がいらっしゃるんですが、そういったようなところの具体的な、ちょっと戻って申し訳ないですが、具体的な策は考えておられますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 浜田議員、ここはお願いするところではありませんので、十分注意してください。

じゃあ、西村町長。

○町長（西村 銀三君） 具体的な相談については、総合案内、窓口で一応全て受け付けさせていただいて、それぞれの所管の担当で解決をできるだけさせていただきたいと思っております。

それから、家賃であるとか、そういった、困っている方も相当数あるということを知っております。町営住宅であれば建設課なり御相談をしていただければ、制度が、支援制度、今現在あるようでありますので、説明をさせていただけると思っております。それから、家賃を少し延ばしてほしいとか、そういう相談にも当然乗れるようになっておりますので、説明をさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 家賃の相談窓口がどこか分からないという声がありますが、そういったところは具体的にはどちらに行かせていただいたらいいんですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 取りあえず総合案内に来ていただく、その後は、町営住宅であれば建設課に御案内するというふうになっております。行政相談全体については市民センター、温泉総合支所でもやっておりますし、またサンシーホールなどでもやっております。それぞれの案件に応じて窓口を開いておりますので、ぜひまずは総合案内のほうで相談をお願いしたいと思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それでは、アフターコロナに対する対策はどのように進められるおつもりですか。具体的な思いがあれば教えていただきたいです。

○議長（中井 勝君） 何か、浜田議員、抽象的なその質問じゃ、多分答えしにくいと思いますよ。でも、まあ、答えてください。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 大変難しい質問だと思います。抽象的な返事になると思うんですけど、この6月1日にも観光協会長さんがアフターコロナの件で研修をしていただきました。その中で、やはり大都会、東京から地方、田舎、こういった動き、それから、バスから自家用車、テレワーク、それから、そういった通信網を利用した情報のやり取りの在り方、そういうことで大きく変わっていくと思います。情報の基盤整備、それから、地方に来ていただけるということになれば、当然、移住定住策の充実、こういったものが基本になると考えております。そういったところを早期に、何といたしますか、受入れ体制ができるように職員の知恵を出して対応を図っていききたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのとおりで、これから地方が求められる時代となっているように感じています。ですが、知らないところには来ていただけない、いかにこの町をPRするかというのが大切になってくると思います。

地域のWi-Fi環境等は先日からいろいろな方がおっしゃっていましたが、やはりとても大切だと思います。特に、ワーケーションって言って、今まではテレワークとかリモートワークと言われることはよくあって、なかなか普及しなかったですが、今回のコロナで大分普及したとは思いますが、ワーケーションがなぜいいかというか、それが重要になってくるかといいますと、仕事とバケーションを合わせた、ワークとバケーションを合わせた言葉でして、リゾートというか、バケーションにこの地を選んでもいただける可能性が高くなってくるのではないかと。そうなってくると、この制度を利用して長期滞在とか、いろいろな有給休暇の消化のためにこの地を選んでもいただけるというか、山間地というか、こういうバケーションに向いてる地域を選んでもいただけるようになると思います。そういったときに必須というか大事なのがWi-Fi環境になると思います。ちょっと今この当町ではWi-Fi環境は充実してるとは言えないと思うんですけど、そのような対策は何かお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） Wi-Fi環境、確かに遅れていると思っております。昨日の質問にもあったんですけど、早期のこういった情報、基盤整備をやっていききたいと思っております。

それから、PR、町に来てもらうには、やはりPRするという事は非常に大事だと思っておりますので、今朝もNHKラジオの5時20分から5時30分まで、これは湯

村温泉のこと、湯がく文化であるとか、そういったお湯を使った日常生活のことをラジオで聞いておりました。偶然聞いたんですけど、やはり湯村温泉という知らない中にもあっても、何ていいますか、全国放送ですから、すごいなと思って聞き入ってしまったんですけど、そういったPRをどんどんどんどんやっていきたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ちょうど昨日の日経新聞の複眼というコーナーで西村屋社長さんの記事が載っていました。その一部を紹介させていただきます。選ばれる努力を尽くす。団塊の世代、75歳以上になる2025年に国内の旅行需要が急速に減り、観光業に危機が訪れると言われてきた。新型コロナウイルスで危機が5年早まった、旅行者1人に1泊当たり最大2万円を補助する政府のキャンペーンで一時的に旅行消費が盛り上がる。ありがたいが、その後半年は反動で需要は冷え込む。インバウンドもすぐには戻らないだろう。コロナ終息後もいばらの道だ。今は回復に向けて次の準備に取り組むときだ。攻めと守りが必要だ。攻めるとしては国内のリピーター客を増やすとともに、インバウンドの誘致に力を入れる。もはや旅館単位では勝負できない。コロナ後こそ、地域の結束力が問われる。城崎温泉では全75件の旅館がそれぞれ持っている顧客の情報を一元管理し、一緒にプロモーションを展開していくことを検討している。どんな人が訪れているかを知り、見込み客を開拓する、町全体を一つの旅館として経営していく、続くんですが、とあります。このような思いで城崎は向かっています。当町も旅館の、当町においてはこの観光業というのは本当に大きな事業というか、観光業なくてはこの町は成り立っていかないというのを今回、特に感じました。これから、こういったように、旅館のそういった思いに対して、先日、観光協会長さんからの話もあったようですが、これからの進んでいく方向性とか、何か思いはありますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 城崎の西村屋さんの会長さんのお話、元町長ということも聞いております。当時打ち出した共存共栄ということで、城崎の旅館がまさに旅館全体で盛り上げていこう、そういう機運があったということを知っております。それから、全国チェーンのコンビニは城崎には入れさせない、そういうことも聞いております。地域を大事にしよう、本当に地域の人が発展する、そういう思いで取り組んでおるということで、すばらしいお話だという具合に聞きました。当町もこういったピンチをチャンスにするという、そういういい機会として捉まえて、町が元気になるようにいろんな考え方をまとめて、次の一手を打っていきたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） そのように考えていただきたいです。そして、この町も旅館業だけではなく、町全体が一つになって支え合える、旅館業のみならず商店、いろんな飲食業などが地域の中でも十分な循環で支え合っている、まず、地域の住んでる

人たちが幸せというか、いい町と感じないとPRもできないのではないのでしょうか。そういった地域の中の循環、支え合う仕組みというのを確立していく方向を考えていただきたいんですが、そういった対策はございますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地域をまとめてそういう意思統一をみんなで共有しながらやっていくという機運をいろんな場で申し上げていきたいな、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 具体的には何かございますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今、観光協会や、観光協会長さん中心にそれぞれの、例えばワーケーションであるとか、具体的に動いていただきつつあります。計画も出ておるようでもありますので、そういった具体策を目に見える形で、これは特にワーケーションにおいてそれぞれの観光協会が率先してやっていこうという、そういう機運が高まっておりますので、そういう意思統一、旅館業、民宿、そういった方々、それに関連する方々をやはり巻き込んで一致協力して町の活性化につなげていけるような、そういう方向性を打ち出していきたい、具体的にはもう少しずつ進んでおるといことであります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それと、今実際、未来チケットというので、これも支え合いの一つではないかと思えます。すごくいいシステムというか、支え合う気持ちが出てほしいんですけど、実際は利用者というか、PRがほとんどなされてなくて、お店の方もこれ、どこでPRしてくれてるんだろう、普通の方もどこに売ってるんですかという、そういったレベルでございます。せっかくいい企画を前向きに考えてくださったということの評価して、評価というか最大限に生かして、この地域の中の支え合う仕組みをPRしていただけたらと思えますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 初日の一般質問にも未来チケットの質問がありました。500円券が2,130枚、それから1万円券が80枚であるとか、かなり売れておるような感じを持っておるんですけど、PRというか、どこで入手したらいいのかとか、そういった質問もあるようでありますので、もっとPRしていきたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） PR、ますます期待しています。

では次に、子育て環境の充実を活かした、子育て支援の今後を問わせていただきます。当町の子育て環境のよさは理解はしていますが、18歳までの思い出、この町は18歳を過ぎると都市部にいろいろな形で出られる方が多いです。となると、18歳までの思い出がこの地での、この地、ふるさとの思い出ということになります。この地域愛を育むために、いろんなこの町のよさを伝えていただきたいと思えます。

若い人たち、いろんなやる気があります。できれば、極端ではありますが、鯖江市のJK課、女子高校生が役場に来ていろんな企画や行動を起こしていく、高校生たちの自主性に任せて、いろいろな活動、地域とのつながりをつくっていく、そのときの思いを胸にまた鯖江に帰ってきて、いろいろ活躍していただいているという実例もあります。当町においても、女子高生ではなくても、いろんな高校生、中学生がいろんな思いでエネルギーにエネルギーを持ってる子たちもいます。何とかそういった子たちと地域とのつながりを、高校の中でも頑張っただけはいただけてますが、もう一步広げる、もう一步住民との協働というか、参画できる機会というのを考えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いいアイデアだと思います。昨年も高校生が企画して、浜高の生徒さん、いろんな地域の産品を使った弁当であるとか、いろんな川や海の生態系であるとか、そういった報告会をお聞きしました。すごい知恵があるなということで、その知恵を生かす場がもっと必要だなということは実感しました。今後、そういう方向を検討していきたいなと思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 実際、高校生までの子供たちもすごく活力がありますが、先ほども言いましたけど、当町の役場の職員さんとかいろんな方でも若い方たちもすごく前向きに頑張ってくださっている方たちがいます。昨日も同僚議員が言ってくださってました、フェイスブックのグループでいろんな企画をして、テークアウトキャンペーン、5月につくった若い人たちがいます。6月には早速皆さんにお伝えしたいということで、そのグループから派生して未来サポート新温泉というのを立ち上げて、給付金をチラシに、全部ではないですが、新聞に折り込んだり、紹介をしたり、前向きにしていますし、8月、10月ぐらいにはイベントをしようという思いを抱えて、実行に移そうと努力してくださっています。そういった思いをたくさん持っている人たちってのが今回見えて、すごいなと思いましたし、そういう方たちを生かしていく、つなげていく仕組みがあれば、もっとこの町はいろんな、今でもジオセン・スでしたかね、とか中学生の子供さんとかがいろいろチャレンジする、そういったいろんな若いアイデア、行動力でいろんな企画が生まれています。そういった企画を応援する、そういったような気持ちはどのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町の未来をつくるのは若い人たちだと思っております。そういった意味で、若い人の知恵や行動力、これは本人さんのもちろん情熱が基本になると思うんですけど、町もやっぱりそれはきっちりと受け止める必要があると思います。例えば、NPO法人をつくっていただければ、町も何らかの支援をしなければならぬとか、そういった制度も町条例でNPO法案、制度もありますので、ぜひそういった制度も利

用していただいたら、活動がより活発になると思います。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ありがたいですが、NPOを立ち上げるっていうのにまたハードルを感じてしまいますので、またそういったようなところの相談窓口も教えていただきたいです。

そして、18歳までの思い出として、当町にはたくさんいい場所があります。私も今回、そのメンバーに教えていただいて、草太園地に初めて行かせていただきました。こんないいところが何十年も知らずに、私、合併して十何年、温泉地域にありますけど、そういったところもあるのに、何で知らなかったのかなと思ったり、こういうところで遊んだ子供たちっていうのは、きっとまたここに自分の子供を連れて遊びに来てくれるんじゃないかなっていうのを思いました。そういったように、広い、ジオパークもたくさんありますし、全部を知るっていうのは難しいですが、やはり少しでも当町での思い出を、18歳までに地域愛を育むということで体験していただければと思いますが、今すぐはちょっとコロナの影響で学習のほうがいろいろ大変とは思いますが、そういった企画もあればと思うんですが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜田議員が初めて草太園地を知ったというのも驚きでした。やはり、何ていいますか、地域全体をもっともっと早く知っていただいたらよかったかな、そのように思っております。

草太園地は、かつては夏休みになると子ども会のキャンプファイヤーをしたりして使っておりました。私も若いときはあそこで子ども会の世話をさせていただいて、毎年利用していた。それから、宿泊施設がありますから、大阪や神戸から、僕の友達も何人もあそこを利用しておりました。今ちょっと老朽化して非常に利用率が低いわけですけど、もっともっと地域のいいところはたくさんあると思います。そういったところをもう一度見ていただいて、活用を高める必要があると思っております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 本当に残念でした。ですが、いざ使おうと思っても使用に堪えるというか、大変古くて、本当に使えるのかなという状況でございました。トイレも水洗ではないですし、ちょっと普通の使える、四、五十年たっているんですかね、50年ぐらいたってますか……（発言する者あり）40年ぐらいたつて、そんなにきれいというか、あまり喜んで、キャンプはできるんですけど、バンガローとか、あまりちょっと使いにくいかもしれない。お手洗いも近くにないですし、もうちょっと工夫していただければと思いました。それは一例ですので、これから子供たちの思い出が増えることを願っています。

それでは、次の質問へ移らせていただきます。兵庫県が発表した1,000年に一度の大雨想定を受けての今後の対応の予定をお伺いいたします。

兵庫県が令和2年5月に発表された1,000年に一度の大雨想定を受けて、今後の課題、予定など対応へ向けてのこれからの具体的なハザードマップ等作成へ向けた考えをお聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県から発表されましたこの1,000年に一度の予想、想定であります。これはあくまでも今回ハザードマップの策定に利用をさせていただくということになっております。また、この後、7月には高潮の予想、想定もなされるということを知っておりますので、そういった情報を得た上でハザードマップに反映するということがあります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ハザードマップが必要なのは必要です。必要ですけど、こういった趣旨というか目的でハザードマップをつくれるんでしょうか、もう一度ちょっと改めて伺いたします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） マップですので、目に見える形で浸水水域、危険水域であるとか、そういったものが分かると。ここは水がどのぐらいたまりますよというふうな、そういう予想図を目に見える形で表示するというのが安全性をきちりと住民の方々に認識をしていただくという、そういうことであります。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） それは町の主導というか、町の思いというか、町がつくるものですか。県ではなくて町がつくる、そして、いつ頃できる予定でしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県がそういう想定を出していただく、それを、ハザードマップは町がつくるという、そういう役割になっております。時期につきましては、9月、秋頃の予定になっております。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） では、そのハザードマップを活用というか、それを町民に配付されるのが9月頃ということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 9月頃ということをお願いします。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） 町民の命が関わる問題ですので、ハザードマップができるのが9月ということでは分かりました。そういったときに子供の命を最優先すると以前言っておられました。もし、警報が出た場合には、具体的には何か町の公用車を使ってでも避難を助けるといったような気持ちはありますでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） それぞれの状況はあります。公用車っていいですか、役場は役場のそれぞれの役割分担があります。防災計画にのっとって職員は動くということになりますから、そのときの、災害がどこに起きるかによって、いろんな行動はそれぞれ変わってくると思っております。今、町が公用車を出して助けに行くか行けんかということとは現状ではちょっと申しかねます。

○議長（中井 勝君） 5番、浜田直子君。

○議員（5番 浜田 直子君） ありがとうございます。いろんな場合が起こる、何でもですけど、いろんな場合が起こる、そういったときには町長の判断というものが生かされるように、柔軟な対応をいろんなことに対して求めますので、そのように期待します。以上をもって質問を終わらせていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基本的には自分の命は自分で守るとというのがまず第一の大原則であると思っております。

○議長（中井 勝君） これで浜田直子君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。20分から。

午前10時05分休憩

午前10時20分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、再開します。

次に、7番、太田昭宏君の質問を許可いたします。

7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） ただいま議長から発言の許可を得ましたので、質問を始めます。

まず、人口減少についてお尋ねします。人口減少は多くの自治体にとって深刻な問題です。資料によりますと、2010年に1億2,806万人あった日本の総人口は2050年には9,708万人に、2100年には4,959万人になると予想されています。新温泉町の2020年4月1日の人口が神戸新聞に載っていました。男、6,356人、女、7,091人、合計1万3,447人です。前の月と比べて87人の減少です。

本町の人口は減少していますが、自然増減、社会増減はどのようになっているのかお尋ねします。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 平成元年度であります、出生数が61人、死亡数が229人、168人の自然減となっております。

○議長（中井 勝君） 令和じゃないですか、町長。

○町長（西村 銀三君） 訂正します。令和であります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） その人口の自然増減、社会増減から、今後の町の人口をどのように予測されますか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 社会減っていいですか、人口の移動、転入、転出による移動は令和元年度が転入266名、それから転出が364名、98名の社会減であります。自然減と社会減を合わせると266人というふうな数字となります。毎年町のデータにも出ますが、約250人近い人口減、そのようなデータが出ております。これ、10年すれば2,500人減、そういうデータになります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） この人口減に歯止めをかけるため、各自治体が様々な取組を行っています。新温泉町も出生率の向上を目標に数値を設定しています。その出生率の目標数値と実際の出生率が分かれば教えてください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これは5年に1回なされる国勢調査の結果であります。前回、平成27年、今年、5年の10月ですか、国勢調査が開始されます。ちょっと5年前ということで古いわけですが、平成27年、当町の出生率は1.43であります。兵庫県下全体では1.48ということでありますので、県下平均より低いということになります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） それでは、出生率が一番高い県というのが沖縄で、1.94だそうです。町長は出生率が一番低い都道府県というのは御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 東京都だと思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 東京都の出生率が1.20です。ところが、出生率が低く、子育て環境のあまりよくないと言われている東京の人口は増えています。このことに対して、町長、どう思いでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 結婚されない方が多いのかな、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 恐らく出生率が低いということは、子供の数も減ってきている。ただ、周りから、あるいは地方から流入する人口が多く、東京都の人口が増えていると私は思います。

この東京都に比べて、待機児童が少なく、育てやすい環境にある新温泉町ですが、町長はさらなる子育てを充実させるための支援策というのをお考えでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 子育て環境、いろいろあるわけです。当町でも独自の支援策はあるわけですが、ハード面、それからソフト面、それから、もちろん資金面であるとか、いろんな支援があると思っております。どっちなかというと横並び的なものもたくさんあると考えます。合併した平成17年度の出生率というのは兵庫県下でも非常に高かった、香美町に次いで2番目という、そういうこともあったんですけど、今では30位ということで、非常に低迷してるというのも実態であります。子育て環境をさらに充実を図っていききたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 以前にも申し上げましたが、女性の負担を減らすこと、あるいは男性の育児参加ができる制度を充実させること、そういう面にも取り組んでいただきたいと思っております。

この出生率というのは一つの目標で、この出生率を上げただけでは人口を増やすことはできません。それでは、人口を増やす方法はほかにないのでしょうか。何人かの同僚議員から提案がありました。Iターン、Uターンなど、移住定住の促進も一つだと思います。その取組を進める上で、町の情報発信は非常に重要だと思います。町はどのような情報発信をされているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 移住定住策が手薄いということで、今年度からアドバイザーを充実したりして拡充を図っているところであります。この3市2町、但馬においても極めて新温泉は移住定住の実績が少ないという実態もあります。ホームページの充実、PRも含めて、町のよさを訴えていききたい、そういったキーワードがおんせん天国ということで、現在、ワーケーションなど、そういった移住定住策、ここに来て、このよさを知っていただく、そういうことを念頭に力を入れていききたい、そう考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） この新型コロナウイルス感染拡大の中で、人が密集する都会よりも地方で働きたいと考える人が増えてきています。この人たちに新温泉町はあなたのためにこんな支援ができますよ、こんな応援ができますよということがピンポイントに届けば、さらに新温泉町への関心が高まるのではないかと思います。

ホームページの充実というのはもちろんですが、職員の方の中にコンピューターあるいはスマホに堪能な方がおられると思います。そういう方を中心に課を超えて、ツイッター、それからインスタグラム、いわゆるSNSを駆使して情報を発信していくというのはいかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 企画課を中心にホームページや、それから町情報の提供をしているわけですが、さらに個別のフェイスブック、そういったところも充実を図っているというのが実態であります。常に情報の更新、発信に努めていききたい、そのよ

うに思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） さらに、こういうことはどうでしょうか。新温泉町が大阪市に寄附をする、100万円とか200万円。今、コロナで非常に飲食業界が困窮しています。大阪のお店に1店舗10万円ぐらいの支援を行うと。その代わり、元気になったら新温泉町の食材を使う、あるいは新温泉町のパンフ、情報、写真、それを店内に置かせてもらう、年に1回は来町して町民の方にごちそうを振る舞う、そういうような取組をすれば、関係人口が増えていき、将来新温泉町に関心を持つ人が増えてくるんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新たな、大変ユニークな提案だと思います。神戸をはじめ、大阪を含め、京阪神に新温泉町からたくさんの方が出て頑張っていていただいております。そういった方々の支援という点でも非常に効果があるような企画ではないか、そのように思っておりますので、一度、検討をしてみたいと思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） あわせて、旧温泉高校の跡地、校舎利用なんですが、企業誘致、企業という単位ではなかなかそこに誘致することも難しいと思います。昨日もありましたが、情報インフラを整備して、テレワークに対応できるようなシェアオフィスにしてはどうでしょうか。そうすれば、個人であれば都会から呼びやすいと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 旧温泉高校の活用については、現在、土地の登記であるとか、そういった見直しを図っております。水路の在り方、登記をきちりとしようということで今、整備をされております。そういった中、次の利用方法、去年も3つの事業所から問合せがあったんですけど、なかなか雇用の促進に向かないということもありまして、現状ストップしているというのが実態であります。今、議員からお話があったシェアオフィス、これも一つの案ではないかと思います。ただ、建物が非常に耐震的にも、それから老朽化ということもあります。今後、選択肢の一つとして検討はできると思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 新温泉町というと、交通の便が悪いとか、やはり田舎だというイメージがありますが、東京から豊岡に移住された平田オリザさんは、豊岡市日高町にお住まいです。オリザさんが言われるには、とても交通面では便利ですよ。僅か数分のところに江原駅があり、電車に乗れば、大阪は2時間です。近くにインターがあり、車で行けば、やはり大阪は2時間、コウノトリ空港があり、飛行機で行けば東京までは2時間で行けます。この新温泉町、例えば温泉、旧温泉高校の場所にしても、3時間見れば、それぞれ大阪、神戸、東京は行き来できます。そういうことを踏まえて、

またいろいろ検討していただけたらと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 平田オリザさんが日高に拠点を置かれたということで、演劇を中心に新たな流れが出てくると思っております。豊岡市ということで、豊岡一辺倒でなしに、浜坂高校を中心にいろんな活動も連携するということも聞いておりますので、そういった方々の知恵もぜひとも拝借したいな、そのように思っております。温泉高校の在り方についても十分方向性を検討させていただきたい、そう思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 次の質問で、県教委が5月21日に、ひょうご未来の高等学校あり方検討委員会を設置すると発表しました。町長はこのことは御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新聞で見させていただいております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） このあり方検討委員会の設置目的の一つに、高校の望ましい規模と、配置の在り方の方向性を検討するとあります。当然、浜坂高校をはじめ、県立高校は検討の対象になりますが、この検討の観点として、高校が持つ地域の活力の推進、ふるさと意識の醸成があります。大切なことは、浜坂高校の存在意義をたくさんの町民の皆さんに理解していただき、浜坂高校存続の意思を町全体で示すことが大事だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 高校と地域との関わり、これが一番大事だと思います。そういった点で、高校単独というふうなそういう、高校は高校さえというスタンスでなしに、地域といかに日常的に、何ていいますか、関係を充実するか、そういう視点が大きな今後の浜高の生き残りっていいですか、存続に関わってくると思います。校長先生をはじめ、地域との関わりを一生懸命今、いろんな点で考えて、なおかつ実行されているというのが実態であります。また、橘友会なども本当に頑張らせていただいて、支援をしているという、そういう背景がありますので、私も浜高卒業生として、地域の最高学府として、もっともっと地域貢献、地域の高校の在り方、人材輩出の拠点として、頑張らせて支援をしていきたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） やはり浜坂高校の存在意義というのは大きいと思います。都会に出ていった子供たちが再び浜坂、温泉に帰ってくるきっかけづくりも高校は大きな役を担っていると思います。ぜひ存続に向けて、町全体が取り組めるよう積極的にアピールしていただきたいと思います。

次の質問に入ります。学校再開と今後の取組についてということで、今まで同僚議員

の質問から、子供たちが元気な様子で登校してるというのが分かりました。この学校再開に当たり、特に留意された点を教えてください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 教育長に答えていただきます。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 学校再開に向けて留意した、学校にお願いした点なんですけれども、授業が開始になるわけですけれども、詰め込みのやっぱり授業になっては、子供たちに過度な負担がかかるということもありましたので、そのことが1点。また、休業中に課題を渡しているわけですけれども、その取組の実態をやはり把握をした上で、一人一人に寄り添った指導、細かな指導をしていただきたいということをお願いしております。それから新入生、小学校1年生であったり、中学校1年生であったり、本当に期待を持っていたと思います。その期待を裏切ることとか、損なうことのないように、本当に子供たちの期待を希望のある形の学校生活に持って行っていただきたいというようなことです。

それから、子供たちのやっぱり心身の不調ということが大変心配されましたので、一人一人アンケートを取りましたので、そのことについて、実態を把握して、カウンセリング等、一対一での対話をしていただきたいということ、それから、子供によっては強いストレスも感じている子供もいますので、養護教諭を中心として学校で組織として対応していただきたいこと、それから、スクールカウンセラーの積極的な活用、そして、スクールカウンセラーに授業をしていただく、子供に直接話す機会を取っていただきたいということをお願いしております。それと、当然ですけれども、感染予防策を取っていただきたいということをお願いしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 子供たちの心身に関する留意事項の中で、先生方によるカウンセリングマインドを研修した後の聞き取りというようなことを今、教育長はおっしゃいましたが、休校中の子供たちはかなりストレスがたまっています。直接子供に会って、子供から話を聞くということが子供たちのストレスや不安を解消することになります。ただ、先生方一人一人が子供たちに接する時間、相談を受け取る時間、この時間が確保されているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） これから学校の中で学校独自のアンケートもしている学校もあります。できるだけ学活とかの時間を使っていただいて、時間を捻出していただく、授業実数ということもありますけれども、やっぱり目の前にいる子供たちの心が元気であれば、学習にも向かう気持ちにもつながると思いますので、そういった時間をつくっていただくようお願いしております。学校によっては、分散登校をしてたときに、既に子供との面談をしている学校もありますので、今後また時間を置いて町教委として

はまたアンケートを取って、また子供の心の変化なり見ていく必要もあると思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 分散登校の間は時間的な余裕もあると思いますが、こういうふうに授業が始まって、担任にしろ、他の先生にしろ、子供たちに相談体制を取ろうと思えば、どうしても放課後というふうになります。ところが、放課後になると授業の教材研究や、そのほか、例えば校内の消毒とか様々な雑用も入ってきます。そういうところで本当に時間確保ができるのか、先生方の時間確保ができるのか、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 議員のおっしゃるように、本当に先生方への負担というのは非常に大きいということは常々感じております。でも、一対一で時間をきっちり取ることもお願いもしていますけれども、例えば子供たちと給食のときだとか、が終わってからとか、遊んでる中でとか、そういった子供と触れ合う中でも変化を読み取るというか、ということも可能だと思います。授業の中でもそれは読み取れる場面があると思っていますので、本当に先生方にも過度な負担にならないようにという思いはありますけれども、やっぱり目の前の子供たちが元気に生活が送れるように町教委としても支援しながら、スクールカウンセラーの活用だとか、そんなことをしながら、時間を少しでもつくっていったらとは思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 表情からいろいろと子供たちの様子を読み取ることは可能だと思います。ただ、子供が何かを教えてと言ったときに、ほかの用があって、後でと答えることが多々あります。やはり時間確保ということが非常に大事だと思います。そのことについてはまた次の学習の支援のところで、もう少し詳しくお尋ねしたいと思います。

子供たちが登校してくる中で、休校中、新型コロナ感染拡大により、子供たちも様々なニュースを目にしたり、耳にしたりしています。医療従事者に対する中傷や差別、あるいは物流関係の従事者に対する中傷や差別、あるいはその家族に対する中傷や差別、そのことに対して学校はどのように対応されているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 連日ニュースの中でも本当に心ない、ツイッターでそういった皆さんに学校に来るなだとか、本当に心が痛むことがニュースでも聞かれます。子供たちは本当に、この休業中にコロナの暗いニュースというか、そういったことを目にする機会が非常に多かったと思います。私たちが思ってる以上に不安もいっぱいあったと思いますし、その不安を親御さんに話せる子もいれば、話せない、前に表現できない子供もいます。ですので、そういった子供たちにスクールカウンセラーの、ストレスはあ

っていいんだよということを伝えるような授業、また、ストレスを解消するためにはこんな方法があるということ、そういったことをしていただくような授業、また、私が以前子供たちへのメッセージでも伝えましたけども、憎むべきはコロナウイルスであって、人ではない、本当に皆さんのために一生懸命医療従事者であったり、頑張っていた人に対するそういったことは、憎むことはおかしいんだということも伝えました。そのためにも、子供たちには正しい知識、コロナウイルスに対する正しい知識をしっかりと知ってもらって、人権、自分の人を大切にするという思いをしっかりと持ってもらいたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 新温泉町は人権の町を宣言しています。様々な時間を取って、人権に関する学習というのは非常に大切だと思います。この分散登校中、あるいはこの休校中の登校の中で、ある学校は子供たちと一緒に、担任と子供たちがこのコロナの差別、中傷に関する話を話した学校もあるようです。事前に登校に向けての準備をされていたようです。特別な時間も必要でしょうが、その都度、気がついたときにそういう話合いをすることも大切だと思いますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当に大事だと思います。子供が話す中で言葉を捉まえて、そこで話をする、お互いに思いを共有し合うってということは、教材というより、本当に生きた、教科書とかそういうことではなくて、生きた話題になり、教材になると思いますので、いろんな考え方を共有するという面で本当に大切なことだと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 児童虐待等につきましては、先ほどの質問で分かったので、その部分は飛ばします。

適応教室についてお尋ねします。以前、教育長は適応教室の設置ということをお話しされてましたが、現状はいかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 適応指導教室なんですけれども、現在、文化会館で週2日の開設をしております。火曜日と木曜日になります。朝9時から3時までということで時間は提示しておりますが、来てもらう子供たちにとったら、時間は自分に合わせていつでも来てもらえるような体制を取っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 何人ぐらい通われてるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 現在、臨時休業中ではあったんですけれども、興味を持ったというか、行きたいというのを去年からも聞いておったお子さんがいらっしましたので、臨時休業中に親子で来てもらって、説明をし、スタートをしました。今現在1名

が、臨時休業中からの設置でしたんですけれども、開設した日は全て出席をしております。あと、1名、こちらから学校を通じて来てくれるというか、興味を持ったら、こういうところがあるというのを保護者の方に紹介をしたいということで、町教委から学校に許可を得て、保護者と面談をしたケースもありますので、また今月中にどこかで見学に来ていただくというようなことで、まだ1名出ているという現状でございます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） この教室に関して、保護者の方、あるいは町民の方は御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 4月の段階で校園長会の中でパンフレット等、適応指導教室、子供相談室の在り方についてプリントをお配りして、学校を通じてお子様、家庭に配付をしていただくようにしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 私もたまたま火曜日に文化会館に行く用があって、その子供さんにもお会いし、少し話をしました。子供にとっては本当に安心できる居場所だと思います。さらにこの活動を充実させていただきたいと思いますが、関わる方というのは、どなたが関わってるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 現在、指導主事1名をこの2日間派遣というか、そこに行って、子供に対する指導をしています。相談体制も指導主事が担当しておりますので、人的配置ということであれば、非常に無理が生じてるというような現状であります。今現在、子供が1名ということですので、様子を見に行ったり私もしますけれども、やはり今後、もう少し人的配置が必要だと思っています。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） せっかく設置された教室ですので、ぜひ人的な部分もクリアして、続けていただけたらと思います。

その次、児童生徒の学習支援についてお尋ねします。学校は再開されましたが、限られた時間の中で学習を進めなければなりません。学習した内容を理解し、自分のものにするためには時間が必要な子供もいます。国は学びの保障、学びの定着を図るために、人的な支援を行っています。まず、最終学年での少人数に対応するための加配教員の配置、次に、複数指導、放課後指導や長期休業中の補習授業のための学習指導員の配置、あるいは消毒や作業など、教師の業務をサポートするスクールサポートスタッフの配置などを行っています。

本町において、希望と実際の配置がどのようになっているか教えてください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、議員に言っていたかのように、国からは人的配置

ということでいろいろ上がっております。今現在、本町におきましては、放課後の学習に支援を増やそうと思っております。現在、子供たちの希望状況を把握いたしまして、やはり昨年度よりも学習に対する不安というところから希望人数が増えておりますので、1人に対応するところに複数配置をということで考えております。

それからスクールサポートスタッフの件ですけれども、これについても、学校の希望があればまた考えていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 質問がちょっと理解してもらえなくて申し訳ないです。少人数に対する加配、この配置の希望が学校にあったかどうか、実際配置されたのかどうか、まず、その1点をお願いします。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 少人数の加配の件ですけれども、昨年度、加配の希望は取りまして、最大限加配がいただけるように大分動いたですけれども、やはり県としたら減らす方向で、4月の段階では配置できておりませんで、減らされた部分もあります。今回の少人数に対する希望というところでは、まだこれから正式に下りてきたらきちんとしていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 正式に下りてきたらということは、これはまだ下りてきてなくて、それが例えば町なりに届いてから人を配置するということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、先ほど申し上げた放課後の部分に関してはやっぱり人数も増えてるので配置をしたいと思っておるんですけれども、少人数に対する加配については、今ちょっと学校からの要望ということにはまだなっておりませんので、対応したいと思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） それは要望が上がってないということでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） すみません、今現在、学校から上がってきていないと、今認識しておるんですけれども、あやふやなことを言っははいけませんので、下りてきているのか、ちょっと確認させてください、すみません。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） そうしましたら、その補習授業のための学習指導員の配置について、もう少し詳しく教えてください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、ひょうごがんばり学びタイムというのをずっと続けているんですけれども、そこの部分に県からも学習指導員を活用していくということがあ

りましたので、そこに人的配置をする形で本町としては個別指導していく、放課後に基礎学力の定着を図るという事業なんですけれども、そこに子供たちに希望を取りまして、小学校5、6年生の希望を取って、人的配置をするという事業になっております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 学校からの要望の人数に対して、その人数を確保できているのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 調査をしまして、今2人配置をしてほしいという学校が3校あります。これから人を探していかなければならないんですけれども、1人配置することでも大変苦労しましたので、早く学校現場が子供たちにしっかり返っていくように頑張ってみつけていきたいと思っております。

それから、先ほどの、すみません、新学習システムの希望の件ですけれども、現在調査をかけております。失礼しました。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） その学習指導員ですが、町内の全ての学校に配置することでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 小学校6校について配置をする形になっております。今回、中学校でもということもちょっと視野を広げて、今検討をしているところです。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） スクールサポートスタッフについてお伺いします。先ほど子供の相談に当たる時間確保というお話をしましたが、非常に例えば給食のときの給食ルームの消毒とか、朝の消毒あるいはプール清掃、様々な作業がありますが、このスクールサポートスタッフの配置ということは考えてないのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、1校に配置をされているんですけれども、本当に作業等、印刷一つとってもそういう方がいらしゃると非常に助かる部分があると思っておりますので、今後、配置に向けて努力をしていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 人的配置はこの状態の中で必要に迫られているわけで、なかなか人の確保が難しいとって先延ばしにすることもまた子供たちにとっては不幸かなと。何かほかの考えはないのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当に子供たちへの負担というか、やっぱり犠牲になるようなことでは駄目だと思っておりますので、広く募集をするとか、そういったことを今現在考えておりますが、なかなか見つからないという現状も目の前にありながら、でも、

見つけないといけないと思いますので、広く募集をかけていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） なかなか学校に行って、子供たちに教えるということはやはりハードルが高い部分もあります。以前お話ししましたが、休業中に公民館を活用してということをおっしゃっていただきました。もし予算があるのなら、公民館に予算を下ろし、近所のおじちゃん、おばちゃんに教えてもらうことも可能ではないでしょうか。学校が終わった後、放課後、子供たちが公民館に集まり、近所のおじちゃん、おばちゃん、塾の先生、いろいろおられると思います。きっと地域は協力していただけたと思います。学校は地域に開かれた学校づくりということを進めてきていると思いますし、評議員の方、それから読み聞かせボランティア、見守り隊、様々な方が学校に関わっているわけですから、ぜひ一度地域に協力を要請してみてください。そうすれば、スクールサポートボランティアという形で人が集まるかもしれません。いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今現在、学習支援ボランティアという形で、学校応援団ということで、4月に募集をかけております。本当にたくさんの方々が登録をしてくださっております。現在も、今は学校の中での活動に支援をしていただくという形を取らせていただいているんですけども、議員のおっしゃったように、公民館で本当に地域の子供たちを地域で育てるということについては、非常に大切なことだと思いますので、ちょっと助けていただきたいということで情報発信をして、できるだけ実現できるように、子供たちも望んでいるところがあると思いますので、頑張っていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 大切なことを受けて、町長にお尋ねします。

以前、公民館活動の充実ということをお話しし、町長も御理解をいただいていると思います。

インターネット環境の件なんですけど、小学校、中学校の子供たちにWi-Fiルーターを、家庭にインターネット環境がないところは、ルーターを配付するような計画があります。ついでに、公民館にもルーターを配付すれば、すぐにインターネット環境が整うと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 情報基盤整備は当然今後早急にする必要があると思っておりますので、議員の御意見も踏まえた上で推進を図っていきたく思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 2番目の保護者の相談窓口も先ほどありましたので、省きます。

その下の、コンピューター等の教育機器の活用についてお尋ねします。先日の神戸新

間に、養父市の小学校で、新型コロナウイルス感染第二波で学校が再び臨時休校になった場合に備えて、オンライン授業の実証実験を行った記事が載っていました。テレビ会議ソフトを使って、家庭と教室を結び、担任が学級目標や社会科の問題をボードで掲げ、子供がそれに答えたそうです。

新温泉町にもタブレットが導入されますが、まず、いつ頃子供たちに届くのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 県の共同購入になっておりますので、それが6月……（「中旬ぐらい」と呼ぶ者あり）6月の中旬に県との契約ができるそうですので、そこからですので、今ははっきりいつとはあれですけれども、はっきり時期は今申し上げられないという現状です。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） このタブレットの活用ですが、以前にもお聞きしましたが、もう一度、どのような使い方をされるか、教えてください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） タブレットにつきましては、G I G Aスクール構想の中でこのタブレットの活用が言われてるわけですが、子供たちの主体的な学習のツールになると思っております。一斉学習の場面でしたら、大型モニターと併用しまして、教材の提示だとか、ノートの画像そのまま映し出すこともできますのでそういったこと、また、個別学習ではドリル学習などができると思いますし、多くは調べ学習というようなことに使われると思います。写真や動画による記録もできるようになっておりますので、そういったことができると思います。

それから、子供たち同士での共同学習の場面では大型モニターを利用したプレゼンテーションだとか、発表の場面だとか、そういったことで使えると思っておりますし、今まででしたら壁新聞を例えば作るとか、そういったときに役割分担をして原稿に書いて集めてきたりするんですけども、それがタブレットが1人ずつに渡れば、それぞれ分担したところをタブレットを使って自分の与えられたところを作るというか、そういったことにも使えると思っております。それから、プログラミング学習の中でも当然使えると思っております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 私たちの年代はなかなかタブレットというか、コンピューターについていけない部分がたくさんあります。子供にとっては、このタブレット1台あれば、教科書であり、ノートであり、辞書であり、あるいは記録を取るのに音声や映像、こういうものも全て子供たちは使いこなすことができます。戸惑うのは教師のほうかもしれません。だから、授業の中でどういう使い方をするのかということ先生方が共通理解をして取り組まないと、なかなか、せっかくお金をかけて活用できるタブレ

ットがあるわけですから、その部分については十分研修なり、若い先生方に教えていただくとかそういう中で、タブレットの可能性を知ること、あるいは操作方法を知ること、メリット、デメリット、こういう部分について、全ての教職員が共通理解することが大事だと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 私もそうですけれども、なかなかこういった機器に対する柔軟に活用していくというところは本当に難しい部分があります。先生方の中にはやはり得意な先生もいれば、それが苦手な部分をお持ちの先生もいらっしゃいますので、今年度、町立研究所のほうで、各学校から1名ずつ出ていただきまして、タブレット、ICTの活用につきましては、研修をしようということで、その充実を図ろうということで今取り組んでおります。まず、本当に先生方が理解をされなければうまく運用していけないと思いますので、しっかりとそこは取り組みたいと思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 私も県の研修所というのは経験があります。今から30年ぐらい前に現場にコンピューターが入り出した頃、県の研修所で教材作成ツールを使って問題を作りましたが、3日間掛ける3回、9日間で、できたのは僅か1題。それよりも例えば若い電話会社の方とか、コンピューター会社の方とか、そういう方からいろいろお話を聞いたほうがはるかにいいのではないかと思います。いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） そういったところから支援しますよというようなことも来ております。今申し上げたように、町の研究所を充実させて、若い先生方から発信をしていただくというようなことも一つ考えてはおりますが、どういったところから来ているか、私が今目にしたのは一つしか来ておらないですけれども、そういったことで支援ができる方法というか、であれば、活用も考えていきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） ぜひ身近な人材を活用しながら取り組んでいただきたいと思います。

その次、先日の委員会の中で、一般会計補正予算に給食センターの空調整備工事850万円がありました。国の支援策の中に、調理員の熱中症対策に必要な経費は、これを支援するという項目がありますが、これを使うことはできないのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） こども教育課長にお答えをいただきます。

○議長（中井 勝君） 松岡こども教育課長。

○こども教育課長（松岡 清和君） 交付金の活用ということで全体的にどういうふうな活用するかということは、総務課の判断ということもありますけれども、当然活用が可能であれば活用していきたいというふうに考えております。

- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） ぜひ検討していただいて、もし活用ができるのであれば、その予算をまたコロナ対策に使うことも可能でしょうし、検討をしてみてください。
- 最後の質問に入ります。体験活動の取組ということで、今年度の自然学校、トライやる、これはどのように予定されてるのでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。
- 教育長（西村 松代君） まず、自然学校ですけれども、現在、10月21日から23日という形で2泊3日の予定をしております。それから、トライやる・ウィークですけれども、11月16日の週にお願いをするというようなことで、各事業所のほうにはお伝えを今しているところです。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 自然学校の21日から23日ということは普通どおりの実施では、期間ではないわけですね。場所はどこを予定されてるのでしょうか。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。
- 教育長（西村 松代君） 現在、うづかの森という、旧兎塚中学校の跡地になるのでしょうか、そこに予定をしております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） 今、コロナ対策で様々な取組を行っています。宿泊施設、もし町内で可能であれば、それを活用することも、また町内を、町内の業者を支えることになると思いますし、海もありますし、可能ではないかと思うんですが、いかがでしょう。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。
- 教育長（西村 松代君） そのことも考えまして、今現在5年生が109名いるんですけども、一度に宿泊をさせる施設があるかということも検討もしました。この町内、今6校が一緒に行くわけなんですけれども、今まででしたら学校ごとに行っていたものが町内が一斉に行くという意義はやはりいろんなほかの学校の子供たちと触れ合う機会というか、一緒にというようなことが、思いがあったのではないかと思います。ですので、できるだけ本当に1か所に泊める宿泊地ということでちょっといろいろ考えてもみたんですけども、提案もしましたけども、今現在はこういう形になっております。
- 議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。
- 議員（7番 太田 昭宏君） この状況の中で、1か所に泊めるということにこだわらなくても、町内であれば分散で宿泊することも可能だと思います。この状況だけにかかわらず、やはり地域のことを子供たちが知るということは非常に大切なことだと思いますし、地域の大人が子供たちに関わることも非常に大切なことだと思います。ぜひ検討をしていただきたいと思います。
- 議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今回、この自然学校の件で、議員のおっしゃったように、私自身もふるさとを知るという意味で、本当に自分たちの地元のことをより子供に知ってもらうということは非常に大事だと思っております。自然学校が難しいということがあったんですけども、例えば町内の施設を利用して、今コロナの時期ですのでどうかとは思いますが、合宿とか、町内の自然を知ろう、町内のふるさと学習をしようという形で例えば募集するとか、そういったこともできるのではないかと、いろんなことを考えております。

それから、町内での分散宿泊ということも御提案いただいたことも、ほかの方からも御提案をいただいたこともあります。いろんなことを今現在考えながらですけども、前向きにというか、来年度に向けても現場とも相談もしました。ですので、ぜひ、本当に新温泉町にはいっぱい宝物があります。私もこのコロナのときになかなか外に出れない中で、新温泉町の自然に本当に癒やされました。いろんなところに行って癒やされたということもあります。ですので、子供たちにやっぱり本当にふるさとのよさを知ってもらいたいという思いはすごくあります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） コロナの状況が今後どのように変わるか分かりませんし、予定されたことが全て実施できるとは分かりません。

もう一つ、修学旅行についてはいかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 修学旅行は現在2校とも9月の終わりに計画をしております。行く方面ですけども、今現在、東京になっておりますので、校長先生も大変悩まれているところではあります。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 小学校のほうはどうでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 申し訳ありません。小学校のほうは10月に温泉地域も広島方面、浜坂も広島ということで決定をしております。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） そのほか、運動会、プール指導、文化祭等々の活動がありますが、一つ一つ判断するのは難しいと思いますが、要はどういう方向で進めようと考えられているのか、お聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 現在、それは学校の教育課程の中のものになります、行事につきましても。私自身は、行事はとっても大事なものだ、子供が育つものだと思っております。現在、プールにつきましても健康診断が必ず必要ですので、実施可能なように健康診断を6月中に全校実施をしまして、プール指導ができる形を今取っております。

す。運動会、体育祭、体育大会につきましては、各学校に委ねているような形になっております。三密を避ける形での方法、いろいろ、午前中開催であるとか、いろんな方法を今模索しながら検討しているところでございます。

○議長（中井 勝君） 7番、太田昭宏君。

○議員（7番 太田 昭宏君） 子供たちの健やかな成長というのは、町民みんなの願いです。ぜひいろんなことに配慮しながら、子供たちが元気に育つよう取り組んでいただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（中井 勝君） これで太田昭宏君の質問を終わります。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。40分まで。

午前11時23分休憩

午前11時40分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、再開します。

次に、14番、谷口功君の質問を許可します。

14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） コロナウイルス感染症の今後の対応策について、町長と教育長の認識を伺いたいと思います。大勢の議員の皆さんが議論をされて、もううんざりだという顔を町長はされていますけれども、もうしばらくよろしく願います。

緊急事態宣言が解除されて、経済社会活動の再開に際し、どんなことに注意し配慮しなければならないのか、今議論しておくことは大事なことでないでしょうか。感染拡大を抑止しながら、経済社会活動の再開を段階的に進めていくことが肝要ではないかと考えますが、今日、町長はどのようにお考えでしょうか。まず最初に見解をお聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今回のコロナウイルスでいろんな教訓を得ることができた、そのように思っておりますし、まだまだこれから第二波が来る、そういう予想が出ております。コロナウイルスは冬に強い、寒さに強い、そういうことも聞いております。今回のコロナウイルス、本当に日本、世界、この地域も含めて、全ての人大きな影響を受けました。特に大事な点、それは命を守る、徹底して命、健康を守る、これは一番大切なポイントであった。それに伴って、経済的な活動が全く止まった。つまり、毎日の日々に必要な収入が途絶える、そういう大変厳しい状況も迎えてしまった。この経済的な点、命と健康を守る、この2点でこのコロナウイルスの大影響、これを町全体としてどう住民生活を支えていくか、そういったことを、その重要性を改めて認識をいたしました。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 全く同感であります。何よりも命を守ることということについては、医療と検査体制の抜本的な強化が必要だと、そして打撃を受けている経済的な影響について、必要なそれぞれの方にきちんと支援を届けるということの大切さということを実際に、自粛と一体の補償こそが今必要だということが再確認できるのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） やっぱり町民の多くの声、現実には、非常に先行きが見えない方が増えているというふうな、実感として肌身をもって感じております。そういった点では、いかにこのコロナ危機を乗り越えていくか、これが町の最大の課題、そのように思っておりますし、そういう視点で打てる限りの支援を打っていきたい、そういう思いがあります。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 具体的に伺いたいと思いますが、感染症対策の抜本的な強化という点で、医療や環境衛生、保健衛生、感染拡大防止のための体制強化ということが今本当に問われているのではないかと、そして、科学的知見に基づいた啓発指導ができる体制、こういうものを今整えなければならないと考えますが、町長はどのようにお考えですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 我が町では、浜坂病院、それから、ささゆりという健康福祉施設があるわけですが、残念ながら国のPCR検査、これもできるわけではありません。特定の機関でしかできないということもあり、ジレンマがあるのは事実であります。我が町で体制が十分対応ができればいいわけですけど、実態はそうになっていない、そういう現状があります。できることは、国も言っております、3つの密を極力避ける、手洗いを励行する、マスクをかける、そういった基本的なところを徹底させていくということは大事だと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 今お答えいただいたPCR検査ですが、日本は諸外国と比べて桁違いに少な過ぎると批判を受けています。少し聞いてみますと、韓国は日本の8倍実施している。アメリカは14倍、欧州、ヨーロッパでは20から30倍と。先進国だと自慢をしている日本がこの程度の検査数しかできていないと、ここには根本的な取組の遅れというものがあると思います。

そこで、兵庫県のPCR検査の実績数あるいは検査可能検体数というものは掌握されてるのでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今のところ掌握をいたしておりません。基本的には保健所がそ

れを対応しているということは聞いております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 先日配られた県民だよりでしたか、県が発行するニュースがありましたね、新聞折り込みされている、あれをみますと、PCR検査の実績は250から260件、そして検査可能検体数は404件となっています。五百数十万人の兵庫県民の人口比でいいますと、あまりにも能力の低さというものに私は啞然としました。この但馬でどれだけの検査ができるのかということを知っても、なかなか明らかにされない背景には、あまりに脆弱なその検査体制が知られることを何とか防ぎたいという思いしか伝わってまいりません。この抜本的なやっぱり拡大を県知事にぜひ求めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨日も国会中継をやっておりました。片山国会議員が、全国の保健所を国が少なくした、減らした、それが大きい原因ではないか、そういう質問を厳しく安倍総理に投げかけておりました。実態はそうだと思っております。全国の保健所の数がもう激減したというのが、そういった今回のコロナの緊急事態に対する対応が全く遅れてしまった背景にあると思っております。本町からも国会議員として谷先生、本町っていいですか、この選挙区からも谷先生が出ておられます。積極的に保健所の在り方、昔はすぐこの役場の裏側に保健所がありました。高校のときは、僕もそこで何回か受診をしたことがあります。それから比べると、本当に人員体制、それから課の在り方も縮小されております。改めて関係機関、知事も含めて訴えていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 次に、医療や介護の崩壊をさせない施策について伺いたいと思っております。医療機関や介護福祉施設での集団感染が各地で見られました。この従事者と入院患者、入所者にPCR検査を行うことは、もう必然といってもいい現状が見られます。どのような見解をお持ちでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 医療の崩壊、医療従事者は本当に今、日本国中で頑張っていると思っております。幸い少しずつ感染も減っておるようであります。何よりも感染を広げない、こういったことが一番大事であります。これには、先ほども言った、3つの密を避ける、そして基本的な消毒、手洗い、マスクの励行、こういったものを徹底させていくというのが基本になると思っております。いろんな、車の移動であるとか、県外の移動、そういったことも含めて、次の第二波に備えて、油断することなく、一人一人が自分の、何ていいますか、感染予防を徹底する、人にうつさない、そういう姿勢は大事だと考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 今、町長お答えいただいた、人にうつさないということ

を実践しようと思うと、自らが感染しているのかどうかを知らなければ、うつさない行動というのは取れないということになりますから、やはりPCR検査の数を増やすというのは非常に大事なことだと思います。この間、医療機関の院内感染は210か所で発生したと言われています。それから、介護・障がい福祉サービス事業施設での院内感染は約70か所と言われています。町長お答えいただいたように、医療や介護崩壊に直結する深刻な事態が既に引き起こされているわけですから、本当にこの厳しい状態を起こさないような施策を今のうちにやっておかなければ、町長お答えいただいているように、第二波、第三波に耐えることができないということになるかと思っています。

振り返って、そもそも政府がどんな対応をしていたのかをもう少し見てみたいと思うんですが、最初に日本で感染が報告されたのが1月3日でした。ここから政府の取ってきた態度というのはなかなかぬるいんですね。その頃に政府が国民向けに発していた指示ということが全く現状を掌握していないといえますか、コロナウイルス感染症の危険性を認識していないとしか思えないようなコールしかしていないということでもあります。

2月7日時点で厚生労働省が国民向けに発したメッセージで、新型コロナウイルス感染症は我が国において現在流行が認められている状況ではありませんというふうに言って、2月12日、既に感染者数が203人発生しているにもかかわらず、その多くはクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号での感染であって、流行期ではないんだ。2月16日には専門家会議も開いて、政府の感染症対策本部も開かれ、17日には医療機関への受診の目安が示されています。これもまたなかなか受診できないという現状で、あちこちの病院を探し回って、その間に重症患者に転換してしまったというような事例もニュース等で各地から報道をされておりました。ですから、政府の初動の遅れというのか、あるいはコロナウイルス感染症への認識ということが、非科学的な根拠でしか認識されていなかったということを証明しているのではないかと言えるような現状がありました。

ですので、本当に我が町でも対策本部を15回ですか、持たれて、しかも、既にSARSが発生したときの体制をどのように整えるかというような基本形を活用して対策を練ってきたということについて、この期にぜひ、どこがよかったのか、どこが問題だったのか、しっかり検証してもらいたい。

あるいは、この専門家会議の記録、議事録が残されていないということもありましたが、我が町での対策本部の議事録はきちんと残されて、次への対策に生かされる準備がされているのかどうか、その点について伺っておきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町における対策本部会議、15回開催されております。2月28日をスタートに今日に至っているというのが実態であります。第二波に備えて、次の対策会議も開く必要があると考えております。

この国の流れ、あるわけですけど、立ち後れた理由もたくさんあると思います。オリンピックを何とかやりたいとか、中国のトップが来るから何とか引き延ばしたいとか、

そういう思いもあったように報道などで一部聞いております。そういうことでなしに、事実を事実として認めて、きっちりと対応するということが大事だと思います。この対策本部会議の資料についても、今まだ集計といいますか、まとめはできていないかも分からないのですが、今後の検証はできるようにきっちりやっていきたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 暫時休憩します。途中ですけども、昼食休憩とします。午後は1時から。

午前11時58分休憩

午後 1時00分再開

○議長（中井 勝君） 休憩を閉じ、再開します。

午前中に引き続き、一般質問を続行します。

14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 町長は午前中の答弁で、ささゆり、浜坂病院をしっかりと守るということをお答えいただいたんですが、現場での最初の困難というのは、感染症に立ち向かうために不可欠な感染症防護具の不足でした。マスクやガウン、フェースシールドや手指消毒用のアルコールの不足、2月段階では病院でお聞きしたときには、中国とは別ルートで問屋さんがしっかりと確保できているので大丈夫という見通しだと話されていたのが、3月になれば急転直下、先行き不透明だと、あるいは、ささゆりではあと1か月分ぐらいしか在庫がないというような状況にまで追い込まれていました。それは単に物が無いというだけではなくて、そこで働いている皆さんに精神的な大きな圧迫を与えることにもなります。こういう問題がどうして起こるのか、資本主義の矛盾だと言ってしまえばそれまでなんですが、本当に第二波、三波のときにはこういう問題がしっかりと解決できていなければ、もっとひどいことになるということは明白であります。

この医療機関をしっかりと支えるという意味で、もちろんコロナ感染症に直接対応している病院を支えることも必要ですが、そこに行かない、そこに負担をかけないために、それぞれの地域で頑張っている医療機関がしっかりと守られていなければ、そこが倒れてしまえば、結局、大きい病院へ患者が集中すると、感染症対応どころではなくなっていくと、こういう角度からの医療崩壊も心配をされてきました。ですから、浜坂病院しっかりと守るというのは、本当に感染症をしっかりと対応していく、大切な役割を担っているということになるわけで、守り通してもらいたいと。

現状ですが、地域の皆さんそれぞれがやっぱり感染症に対応しなければならないということから、受診抑制をしています。その結果、浜坂病院にも大きな収益の減収が見られると思うんですね。把握されてるでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 大きく減収といいますか、利用者が減っております。1日当た

り平均が大体去年で93名でした。現在は70人割る日もあるということで、大変減少しているというのが実態です。入院患者も減っております。そういった意味では、病院の利用率については、全国的に病院経営が厳しくなっているという、そういった報道も出ておりますので、我が町も同じような傾向だと感じております。病院に行って、うつらない、うつってはいけない、そういう抑制もあるということも聞いております。そういった点では、病院の感染予防対策、これを徹底的にやる必要がある、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 患者数の推移を見せていただきました。単純に計算して、1億数千万円のマイナスになるのではないかなと、私、単純に見てです。ですから、もう年度末に支援をするということではなくて、今から必要なものはちゃんと町長、事業者にはしっかり支援をするということを答弁されているわけですから、公営企業でありますので、企業体にしっかり現ナマを支援してもらいたいと考えますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 減収、経営の健全性を確保するという点で、今回の交付金、医療、病院の減収についても交付金が使えるという、そういう通知も受けております。そういったところを有効に活用しながら、病院の運営を支えていくように頑張っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） そういう答弁いただきましたので、両事務長に、この間どういう奮闘をされたのか、どういう独自の努力をされたのか、特徴的なことをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中井 勝君） 吉野事務長。

○浜坂病院事務長（吉野 松樹君） まず、病院のほうでありますけれども、1月にコロナ感染が発症いたしました。その段階で、以降、病院のほうでは9回ぐらいの会議をして、病院としての対応策を検討してまいりました。その中で、一応一番最初に押さえたのが、今回のコロナウイルスはあくまで感染症であります。ということは、国の法律の中で感染症の予防に関する法律がありますので、こちらに基づくものであります。ということで、浜坂病院については直接患者は来ないという前提があるわけですが、疑いの患者が、症状が分かりませんから、いつ誰が来られるか分からない、そういった意味では、浜坂病院の中では診療の提供体制を守ること、それから病院の施設の中に感染源を入れないということ、そういったことを目標に上げました。

その対応として、まず、入院患者については、3月の下旬からは入院患者の面会を禁止を決めました。それから、4月13日からについては外来患者による院内の病原菌の感染を防ぐために、浜坂病院においでになる患者さん全てから、全ての患者さんに対してマスクの着用の確認、それから検温による発熱状況の確認、聞き取りによる風邪症状

の有無の確認、こういったことにより、浜坂病院の中に患者を入れないという努力をさせていただきます。少ない人数でありますので、看護師だけでは対応できないですから、時には医療技術者、あるいは事務まで対応しながらトリアージのほうに入りました。それから、玄関で、もし疑いの患者さんが来られたとき、そういったときには一般の患者とは区別する必要がありますので、発熱外来ということをして4月13日から設置をいたしました。4月13日から6月8日までの間に6件の相談がありましたけれども、いずれも安全で、感染してないということではあったところでもあります。

それから、議員の質問の中に物品等の備蓄の関係がありました。浜坂病院については、これまでからマスク、エプロン、ガウン、手袋、消毒液、そういったことについてはある程度の備蓄といますか、SPDによって在庫を抱えておりましたけれども、基本的には3月いっぱいまでについては大丈夫ということですが、それ以降、業者からも在庫が難しいというような状況があって慌てたところはありますけれども、その間にマスクなんかの補充については、県からの補充給付があったりして、何とか対応はできておるところであります。そういったところを含めて、今後の問題としては、こういった備蓄についても少し増やす必要があるなという考えで対応を図っているところでもあります。

それから、今回の一般質問の中にもちょっとありましたが、職員に感染をさせないための対策、これにも注意を払ったところでもあります。基本的には、医療施設における感染対策のガイドラインというものがございます。これに基づいて、基本的には安全を確保を図ったつもりであります。

浜坂病院の中には、こういったガイドラインの適用が、玄関である場合と、発熱外来である場合で2種類用意しました。玄関の場合は、基本的にはガイドラインに沿った普通の標準的な感染予防対策ということです。この内容については、豊岡病院、あるいは鳥取県の中央病院、あるいは市立病院とも情報連絡しながら、同じような状況で対応できていたと感じております。

一方、発熱外来におきましては、疑いがあるわけですから、完全に防御しないといけないということで、感染指定の受診の指定病院、これと同じような形、徹底した防護体制、こちらについては6回ともさせていただいております。玄関の中では、基本的にはマスクの着用、それから標準的な防護服の着用、それからフェースシールドについては必要に応じて、といいますのも、玄関のトリアージの段階では、非接触の体温で検温するのは一瞬です。それから、発熱があるかないかの確認も一瞬です。それから、風邪症状の確認もそんなに時間かかりません。ということは、15秒以内で済みますので、基本的には濃厚接触ではないというような判断をさせていただいております。その中で少しでも疑問があれば、熱があった段階で即発熱外来のほうに誘導という形で、一般患者と区別すること、それから別の職員で交代すること、こういったことで隔離を図っているところでもあります。

といったような状況で、今のところ、今回のコロナウイルスの感染症については感染

者発生してないということで胸をほっとしてるところですけども、今後のことを含めて、浜坂病院としては、一番本当にいい機会だと思ってますから、町民の皆様に公衆衛生意識、こちらを身につけていただくような取組もしていきたい、そういうふうに思っております。

今回のコロナウイルスがあまり広がらない結果出てるのは、やっぱりマスクの着用であったりとか、手指衛生であったりとか、不要不急の外出を控える、そういったPRの効果が現れている結果だと思っております。今回がいい機会ですので、病院としても、そういった公衆衛生の啓発に尽力していきたいと考えております。

○議長（中井 勝君） 土江参事。

○町参事（土江 克彦君） すみません、今事務長がお話しさせていただいたようなことが取組なんですけれども、私からちょっと二、三点、皆様方知っていただきたいことがございます。

浜坂病院におきましては、今回の新型コロナウイルス、情報がころころと変わってきている状況で、職員を集めて会議をするいとまがないというときは、浜坂病院のLINE、それぞれがスマホ持ってますので、LINEで情報を流して行って、そこで確認していただくと、ITを使った、そういった機器で情報を流して、新しい情報を流していったような対応もしております。

それと、マスクが一時足らなかつた、不足するかなというときに、来院される方にマスク着用がない方を入れたくないのでどうするかという話があったときに、職員の中からマスクを作るきれを、生地を募集かけました。そうしたところ、たくさんの生地が寄せられまして、それを補助看さんの方がミシンをかけられますので、マスクを手作りして、それを玄関先でマスクをしてない方についてお渡しをするといった対応をさせていただいております。

それと、長期投薬をされてる方がなかなか自主的に来院されてないということで、厚生労働省から電話再診、電話診療というのが許可が出ました。すぐに対応するために、先生方のほうに午後から、患者さんが電話をして、そこで問診をして、長期投薬していかどうかということ判断して、処方箋を職員の手でかかりつけの薬剤店舗にファクスで送信するといったようなことも対応させていただいております。

そういったことで、また、PCR検査が本当にできる病院になればいいんですけども、ただ、なったらなつたで私は怖いと思ってるんですね。私のPCR検査をしてくださいという方が浜坂病院に殺到したとき、それを考えると、外来診療がストップしてしまわないのかなといった懸念もございます。そういったこともドクター方と色々な話をさせていただいてる中です。

それと、PCR検査、御承知のとおり、鼻腔の粘液を採って検査をして、2日間ぐらいで結果が出るということだったんですけども、最近では唾液を採って、検査結果も短時間になったということはございますけれども、ただ、いずれにしても、それは慎

重にやっぱりやっていかないと、浜坂病院のレベルでは慎重にやっていかないといけないのかなと思ってます。

今回、私たち、反省点もありますけれども、感染対策委員会というのが院内にあります。それらを柱として、本当に職員が一丸となっている取組をしたなと思ってます。ただ、外からの評価もいただいておりますし、ちっちゃい病院ながらに一生懸命取り組んだと思ってます。

秋口ですけども、二波、三波が寄せられると、また来るのではないかとといったことが懸念されてますけれども、我々一番心配してるのは、また冬場になりますとインフルエンザがはやってくるわけですね。インフルエンザなのか、新型コロナなのかが分からなくなってしまうというときが一番怖い、そのときに院内の職員もパニックになってしまうんじゃないかなということを恐れながら、それらをまた今後につきましても慎重に会議をしていきながら、詰めていきたいと考えておりますので、御理解をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○議長（中井 勝君） ささゆり事務長。

○介護老人保健施設ささゆり事務長（宇野喜代美君） 老健ですけども、介護保健施設ある中で、在宅支援という位置づけで、長期入所、ショートとそれぞれあるわけです。施設に入所されている方も守らなければいけないですし、一方で、通所やその御家族、地域で在宅療養されてる方々の生活も支えていくという両面の施設の位置づけとなっております。通所リハビリテーションでは積極的に事業、基本的には国なり県なりの方針は事業は継続してくださいという方針ですので、その方針に従ってはどこも悩みながら行ってるんだろうなと思っておりますし、現在もそうです。

ですけども、一方で、通所系は、本当にそうやって事業を展開すればするほど感染リスクが高まるということもあります。通所系におきましては、通所リハビリテーションはもう利用人数を一定限抑制させていただいたり、時間短縮を行って、5月26日からは通常どおりの営業とさせていただいたところです。まずもって、施設内にウイルスを持ち込ませないことが肝要ですので、先ほど吉野事務長もおっしゃいましたが、マスクの着用だとか手洗いはもちろん、出勤前の体温測定を徹底しましたし、37度以上の人が2人ほどいましたけど、もう即出勤停止とさせていただいておりますし、職員についても自覚を持った行動を行うということで指揮を行っております。幸いなことにいいますか、平成30年度から個別で携帯用のアルコール手指消毒を全ての職員に配付しておりましたので、手洗いができないときでも手指衛生は可能だということがあります。

それから、委託業者につきましても文書を出しまして、清掃、給食、シルバー人材センターに委託してる業務なんかは職員の健康管理を徹底してくれということで指示を出しておりますし、インフルエンザの流行期だったということもありまして、1月10日頃からだったと思いますが、面会を禁止させていただいております。でも、面会ができないというのはやっぱり双方ストレスに、利用者さんにとっても家族にとってもストレ

スとなっておりますので、何とかできないかということで、テレビとホームビデオを使いまして、2月27日からテレビモニターでの面会を開始しておりますし、やっぱり高齢者は基礎疾患を持つ方が多いですので、感染すると本当にクラスター、複数の重症者も出しますので、最悪、本当に命を落とす人が出てくるおそれもあります。

この間、2月、コロナが騒がれ出した頃から毎週、感染対策委員会なんかで対策をいろいろ話し合って、職員の研修会も行う中でいろんな策を講じてきて、現在があります。もし感染が発生した場合に、それに備えての行動についても考えていかないといけないのかなというふうに準備を進めているところです。レッドゾーンとかグリーンゾーンというゾーニングとか、あと、職員がどう動くのかとか、衛生資材が不足した場合に代用をどうするのかとかいうことも考えていかないといけないと思っていますので、当面、物品については、マスクについては1か月ちょっとですけれども、職員のほうで、フェースシールドはありませんので、フェースシールドを夜勤の職員がパウチのフィルムで作ったりだとか、いろんな様々な工夫を凝らして、次期、現在発生してませんので、今後発生した場合とかいろんな場合を想定して今準備をしているところです。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 1月段階から、早い段階から院内会議を開いたり、あるいは動線分離、発熱外来の設置、あるいはささゆりではお金をかけないでホームビデオとテレビを使った面会といいますか、そういう様々な工夫や努力を続けていただいています。

町長、先ほど財政的支援を答弁いただきましたので、その中には単に受診抑制だけではなくて、連続して、診療報酬の引下げ、あるいは薬価の引下げ、それから消費税増税、こういうものへの影響というのも、コロナがなくても、もともと厳しい状況があったということですから、しっかりそのマイナス面を考慮して資金の充当をしてもらいたいということ。

それから、単に公立施設だけでなく、民間の事業所、福祉関連の事業所、障がい者関連の事業所、こういったところにも臨時会でも申し上げましたが、きちんと現状を掌握されて必要な支援を進めていただきたいと思います、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） コロナウイルスによって全部の事業所が非常に厳しい状況にあると思います。老人ホームの状況もきっちりと状況確認する中、支援策を徹底してまいりたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 先ほども参事から少しありましたが、神戸大学の先生でしたかね、応援に来ていただいている先生が、田舎の小さな病院でコロナ対策についてしっかり取り組んでいると、びっくりされていたという話もお聞きいたしております。ぜひ、引き続き気を緩めずに、ここからが本当に真価が問われるということだと思います。

すので、徹底していただきたいと思います。

次に、社会経済対策と人権保障の視点でと明示しているわけですが、事業所への支援というのがこの間非常に強調されて、何よりも倒してしまったら、その影響がいろんなところへ波及するということですから、しっかり支えるというのは当然大事なことでありますが、いよいよこの厳しい状況が長期にわたればわたるほど、弱者ほど大変な状況に追い込まれていくということになりますから、ぜひその実態を把握するために、例えばアンケート調査をするとか、実態把握に努めていただきたいということ、それから、本当に年収200万円を下るような方への必要な支援を、きちんとアンケートの結果も踏まえて、必要な手だてを打っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 財政、経済対策っていいですか、商工業者をはじめ、畜産業など、漁業者など、支援策は打ち出しておるわけですけど、一方で、議員が言われたように、非常に経済的に困難な状況の方もたくさんいらっしゃいます。そういった意味で、この5月の2回の臨時会におきましては、給食の無償化、それから水道料金の4か月の無償化、そういったものを打ち出しております。さらに支援策を現在検討しておりますので、この6月、今定例会で提案させていただく予定になっております。そういったことをやる中で、きっちりと支援をしてまいりたいと思います。

また、アンケート調査ということではありますが、それについてはちょっと検討をさせていただきます。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） この間の失業者数、あるいは生活保護世帯の変動等は把握されているでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 商工会経由で、失業者の実態は確認いたしております。現在のところ、廃業した10名ということで、それ以外の臨時職、パートであるとか、そういった方々の報告は現在のところ商工会には来ていないということでありました。ただ、商工会に来ていないだけであって、現実としては私も個人的に職を失ったということを聞いております。実態把握に努めていきたいと思います。

それから、もう1点の質問については担当課長よりお答え……（発言する者あり）あっ、分らん。ちょっとそのみしか、今のところ分かりません。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） さらに、午前中にも議論があったんですが、今、5人に1人の割合で大学生が退学を検討していると。つまり、経済的困難に追い込まれて、そういう状況になっているという調査があるほど、学生が危機的状況に追い込まれています。ここへの支援というのは本当に大事だと思います。単に地元の産物を送るだけでは、私は間に合わないのではないかと、実態把握とともに、ぜひここへの支援についても検

討いたいただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状では大学生、専門学生、約400人いるということで、数字といいますか、人数把握はいたしております。できたら、養父市の新聞報道にもあったんですけど、何らかの形、特産品の送付のみならず、そういった支援も検討したいなと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 次に行きたいと思えます。

昨日、議論がありました浜坂漁協の競り場の衛生環境向上策への支援ということであり、少し追加で議論をさせていただきたいと思うんです。既に町長は何らかの支援を検討するというふうに答弁されているわけですが、来年から御承知のようにHACCPがいよいよスタートすると、食品の安全性の向上や品質管理の徹底を図るという目的で、国際標準レベルに引き上げるものだと聞いております。かつては、競り場の風景というのは、木箱で魚が入れられていて、その上を長靴で仲買人さんが移動しながら品物を見定めて、競りにかけるというような風景が見られました。しかし、何といたっても生ものである、食べ物であります。こういうものの、いわゆるどこでどういうふうに消費者へ提供されたのかということが厳しく問われるようになってきていると、そういう中で国際標準に高めていくんだという、施設の衛生環境を整えていくという必要性に迫られている。

同時に、既に鳥取県のそれぞれの漁港では、既にもうHACCP対応の整備が完了していると。同じ例えば松葉ガニであったり、ホタルイカであったり、水揚げをしているわけですが、一方ではHACCP対応の競り場で競られていくと、他方、まだ長靴履きのというような遅れた状況では地域間競争に打ち勝つことはできないということにもなります。将来展望を見据えても必要な施設整備でありますから、ぜひ行政の強力な支援をとということでもありますので、ぜひ最大限の協力を要請したいと思えますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今回、漁協のほうから御提案がありまして、何とか支援したいということだったんですけど、そこにちょっと壁がありまして、今回は制度的にできないというのが判明しました。次なる機会に、また支援策をやっていききたい、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 次に、台風や豪雨など風水害が多発する季節になってまいります。現在、日本列島のあちこちで震度4程度の地震が続発しています。コロナウイルス感染症と複合的な災害の対処方針、具体的施策を伺いたいと思えます。現時点での考えられている点をお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 従来の避難対策と違って、今回はウイルスに感染しないという、大きな考え方が変わってきております。1か所にたくさんの人を集めることによって、感染予防といえますか、感染が広がるとか、そういう心配があります。個別に避難する、そういった方法、それから、仮に避難しても十分な、三密にならない、そういった避難所の在り方、こういったものを具体的にやっていく必要があると考えておりますし、また、広い学校の空いた教室であるとか、それから旅館、民宿、こういったものとの御協力も要るのではないかとということで、現在、旅館、民宿にはそういう提案するように準備をいたしております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 同時に進めていただきたいのが、いわゆる医療や介護や災害備蓄品等の抜本的な補充であります。現在は、センター方式といえますか、集中的に保管をしているという在り方を各地域ごとに備蓄すると、そして、本当に今、備蓄品というのか、備蓄に当たるのかどうかというレベルではないかと思うんですね。ですから、本当にそれぞれの災害を想定して、それに必要な充足ができているのかということとを再点検していただいて、本当に今この機会に、しかも国のお金を使ってということも可能だと伺っていますから、ぜひ補充をいただきたい。当然マスクだとか、医療用のガウンだとか、そういうことも含めて、抜本的な見直しが必要だと、迫られていると考えますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 従来の備蓄品ではコロナは乗り切れないと思っておりますし、消毒液、そして、そういった体温計であるとか、さらには距離を空ける間仕切りであるとか、そういった、従来どおりの考えにない対応策、備蓄品が必要だと思っておりますので、そこは抜かりなく準備をしたいと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 新しいハザードマップ、1000分の1想定が出されております。この議論の中で、町長は、災害、豪雨であったり台風であったり、そういうものというのは観測技術も進んで予測が可能だとお答えになっていたわけですが、2018年の7月豪雨では死者が224名、行方不明者8名、負傷者456名、それから昨年の豪雨、台風による死者は108名、行方不明者3名、負傷者703名。だから、予測できるという状況が当てはまっているのかどうかも含めて、やっぱり災害というのはなかなか厳しいもので、予測を超えた被害が出ている、死者も出ているというのが現状ではないでしょうか。ですから、やっぱり過信することなく、しっかり対応しなければならぬと考えますが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員のおっしゃるとおりだと思っております。災害は忘れた頃

にやってくる、そういった意味では、油断することなく災害に備えるという基本姿勢は要と思います。その備えるにしても、やはり今現在我々が生活している実態、崖の近くであるとか、そういった具体的な自分たちが住んでいる現状を十分に確認しておく、その上で避難活動もできると考えておりますし、そういった意味のハザードマップにいろんな県からいただくデータを生かしていきたい、目に見える形でこのハザードマップの活用をしていただきたい、そのように思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 次に、教育長に、学校再開に当たって、子供の学び、心身のケア、安全の保障等伺っていきたいと思います。

まず、子供の不安やストレスへの対応について、今日も、昨日も議論があったところでありますが、もう一度中心点のみお答えいただけるでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 子供たちの心のケアというか、この間の休業期間中の子供たちの実態把握というのは、昨日から申し上げておるんですけども、アンケートを実施しております。今回、6月1日から再開したわけですけども、授業の中で、やはり詰め込みの授業にならないであるとか、心身の不調を訴えた子供たちに対しては周りの大人がしっかりと対応していく、それから、それに関してスクールカウンセラーの活用、またSSW、スクールソーシャルワーカーの時間を延長するというのも考えておりますし、子供たちをやっぱり全力で守っていきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 緊急事態宣言が発令中に、国立成育医療研究センターが全国の小、中、高の子供を対象にコロナ×こどもアンケートを行っているんですが、御存じでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） すみません、ちょっと分らないです。申し訳ないです。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 少し紹介したいと思います。このアンケートを行って、1,292人の子供が回答しています。子供たちの困り事という設問に対して、第1位がお友達と会えない、2位が学校に行けない、3位が外で遊べない、4位が勉強が心配、5位は体を動かして遊べないといった回答になっています。また、子供の心への影響という設問では、コロナのことを考えると嫌だ、最近集中できない、すぐにいらいらしてしまう、寝つけない、夜、目が覚める、嫌な夢、悪夢をよく見る、独りぼっちだと感じる、自分や家族を傷つけてしまう、こういう深刻な回答になっています。このような子供を受け止める手厚い教育が必要だと考えます。

今日、教育長は学校に適切な指示をもう既に出しているというふうにお答えいただいたんですが、本当に子供たちの切実な悩みであったり、困り事であったり、表現されて

いると思うんですが、改めて何か見解がありましたら、お聞かせください。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 今、議員から言っていただきました、友達と会えないだとか、遊べないとか、そういったことが実は本町のアンケートの中からも顕著に表れていまして、本当にやっぱり友達と会えなかったということはすごく大きな子供たちのストレスですし、外に出て本当に遊べなかったということがどれだけ子供の心に影響を及ぼしたのかということは、本当に私たち、しっかりと受け止めて考えていかないといけないと思っています。

私自身、実は阪神・淡路大震災のときに休校が長く続きましたことも経験しています。実は、その子供たち、ちっちゃい頃に体験したこと、小学校の低学年だとか、そういった子供たちが中学校に上がってきたときにいろんな形で出ました。ですので、今回のことも今で終わることではないと私は思っています。この先もいろんなやっぱりケアも必要になってくるだろうと思いますし、すぐに形として出る子供もいれば、そうじゃない子供もおりますので、本当に注意深く、しっかりとその辺りの対応というか、支援もしていきたいと思っています。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 結局、今日午前中の議論もありましたように、子供一人一人に丁寧に対応しなければ、いきなり学習に入るということさえも、今の教育長の答弁でも、震災の経験でも、学習に入ることができないということが示されているのではないかと思います。ですから、本当に手厚いといいますか、一人一人に寄り添った対応を進めていただきたいと。そのためには、やっぱり手間暇かかるということだと思うんですね。手間暇かかるということは、現状の人員配置で本当にそんな手厚いことが、一人一人に寄り添うことができるのか、子供のそういう悩みに応えることができるのかと、聞き届けることができるのかということが心配になるんですが、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当に、一人一人に丁寧に対応していくためには、それだけ人も要るわけです。多くの目があれば救える子供も多くいると思います。そういったことは私自身も感じておりますし、スクールカウンセラーが配置になった経緯も、そういった震災を受けての配置もありましたし、まだまだ足りていないと思っておりますので、そういった面の人員配置も必要だと思っています。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） さらに、学びを保障するという面で、夏休みを短縮すると、学校行事は教育長は予定どおりやりたいということをお答えいただいたんですが、どうしても授業時間数が不足をすると、そうすると例えば土曜日授業をしようかということになりかねないですね。そうすると、新たなストレスが子供たちにたまっていくのではないかと心配をするんですが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 本当に詰め込みというか、ずっと思ってるんですけど、授業時数だけでは測れないものが本当にあると思っております。子供たちそれぞれのストレス感はいろいろあると思っておりますので、詰め込みになって、本当に子供の心がどういうんでしょうか、それに対応していかない、追いついていかないということも十分考えられますので、その辺は年間を通して、授業が子供たちの本当の学びに、定着につながるような方策も考えないといけないかなとも思っておりますし、とにかく過度の負担にならないようにとは思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） その上に、今、先生は毎日の消毒だとか、清掃だとか、健康チェックと、あるいはおとといの議論ですか、草刈りをしたりとかということもされて、とても一人一人に寄り添うようなことができない実情が次々に示されていますよね。結局、だから、補助的な人員配置ではなくて、抜本的な今こそ少人数学級が必要だと教育長おっしゃったんだけど、今こそ教員の、本来必要な教員数をきちんと配置するってことが今最も求められていることではないのかなと思うんですが、いかがですか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） 教員数のことに関しまして、それは思っております。これは今年に限ったことではなくって、ずっと教員の増員というか、加配の増員ということはいろんな角度から要望もしてきているんですけども、子供たち一人一人を丁寧にということを打ち出していく中で、もう本当に教員、人数いただけたら、もっと細かいところまで手厚くできるんじゃないかということはずっと思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 5月22日に日本教育学会が提言を発表しています。小学校3人、中学校3人、高校2人、合計約10万人の教員の増加を図るべきだ、それにICT支援員、学習指導員、小・中学校4人、高校に2人、合計約13万人の配置をすべき、約1兆円の経費を見るべきだという提言をしています。教育長、いかがお考えですか。

○議長（中井 勝君） 西村教育長。

○教育長（西村 松代君） それは、はっきりとした数字は覚えてなかったですけども、そういった提言があったことは知っております。本当に人員を増やしていただく、ICT、今回いろいろ進めなければならぬですけども、そういったところへの支援ももちろん要ると思っておりますし、できる支援を学校現場が本当に混乱しない、やはり今先生方が目の前に子供をして、支援をしていこうと、でも、取られる手があるということもありますので、しっかりその辺は必要であると思っております。

○議長（中井 勝君） 14番、谷口功君。

○議員（14番 谷口 功君） 最後に、町長に伺います。世界は地球上の生態系の破壊と気候変動の激化、この渦中にあり、そして今、この新型コロナウイルス感染症の拡大に冒されている、そういう現在がそのコロナ以前に戻るだけでいいのかどうか、感染症対策として、生活を改善しましょう、行動を変容しましょう、こういうことだけでいいのだろうか。なぜ、いつから、どのように現代社会はこんなにひずんで、自然災害や感染症に対して脆弱になったのか、それを振り返って、そして、今後の進むべき道を、あるいはあるべき社会の将来構想、展望を見いだすことが必要なのではないのでしょうか。

さらに、私はいま一度、日本国憲法を読み直していただきたいと。あの、昭和でいいますと21年ですね、昭和21年3月に公布された憲法が戦後すぐに準備をされて、今日の憲法があるわけですがけれども、そういう厳しい社会環境、経済環境の中で、今日の憲法がどういう背景の下にこの憲法の文面になったのか、一つ一つの項目がどういう背景の下にこの憲法になっているのかということをしっかり考えてみるということというのは非常に意味があるのではないかと思います、いかがでしょうか。

○議長（中井 勝君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 憲法の精神は基本的に私は大賛成です。3つの主権、それから基本的人権の尊重であるとか、本当にすばらしい憲法だと思っております。これを軸にして、やっぱり私たちの生活を常に見直す必要があると思っております。

僕も昭和24年生まれで、戦後の混乱期、非常に厳しい、貧しい、同級生みんなそうだと思うんですけど、物が無い、食べ物がない、今のように豊かな生活環境は全くなかった時代でありました。それなりに楽しい思い出はたくさんあります。人と人との交流もたくさんありました。地域が本当に、何ていいますか、地域は地域を守って、商店街も非常ににぎわいがありました。そういった点では、つつましくもにぎやかで心温まる、そういう時代が我々が小さい頃の時代であった、そんなふうな記憶は残っております。

このコロナウイルスによって、私たちの生活のスタイルは大きく変わろうとしております。東京一極集中、大都会から地方、田舎、そして集中から分散、それにまた海外に出ている日本のいろんな工場、製造業も海外から日本に帰ってくる、そういうことも期待できます。いろんな流れが変わろうとしております。生活スタイル、例えば働き方においては家で働くことができる、そういう環境ができておりますし、通勤などはバス、列車から徒歩、自転車、さらには食事では持ち帰り、そういったいろんな面で生活のスタイルが変わろうとしております。こういったことが、本当にもう一度原点に戻って、自分の一人一人の生活を見直していく、いいチャンスだと思います。これを機会に、これまで成長一辺倒というのが実態でした。成長からやはり安心、そういう社会に移って、やっぱり支え合う、自分より、自分も大切にせないけんわけですけど、他人にも十分な思いやりが必要、そういうことがコロナを通して浸透していったらいいな、そのように考えております。

○議長（中井 勝君） これで谷口功君の質問を終わります。

暫時休憩します。（「10分でしょうか」と呼ぶ者あり）10分から。

午後1時53分休憩

---

午後2時10分再開

○議長（中井 勝君） 再開いたします。

---

○議長（中井 勝君） ただいま休憩中に協議いたしましたとおり、令和2年度新温泉町一般会計補正予算（第5号）並びに特別会計4会計及び公営企業会計4会計の補正予算につきましては、休憩のままで内容の説明を受けることにいたします。

暫時休憩します。

午後2時11分休憩

---

午後2時58分再開

○議長（中井 勝君） 再開いたします。

以上をもって、休憩中における令和2年度新温泉町一般会計補正予算（第5号）並びに特別会計4会計及び公営企業会計4会計の補正予算についての説明は終わりました。

---

○議長（中井 勝君） お諮りいたします。本日の会議はこの辺で延会したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中井 勝君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

次は、6月23日火曜日午前9時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりください。長時間お疲れさまでした。

午後2時59分延会

---